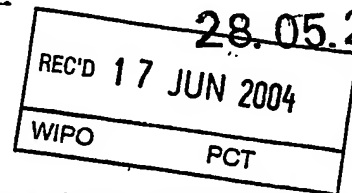


PCT/PTC 28 JAN 2005

PCT/JP 2004/007747

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

28.05.2004



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2003年 5月30日

出 願 番 号  
Application Number: 特願2003-153927  
[ST. 10/C]: [JP 2003-153927]

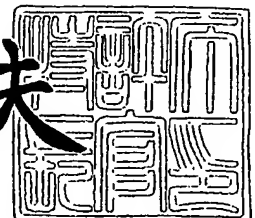
出 願 人  
Applicant(s): ソニー株式会社

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 2月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



Best Available Copy

出証番号 出証特2004-3011372

【書類名】 特許願

【整理番号】 0390137709

【提出日】 平成15年 5月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H03M 13/03

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県横浜市保土ヶ谷区新井町220の20

【氏名】 菊池 敦

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 服部 雅之

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 宮内 俊之

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 渡辺 一夫

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 菅 真紀子

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100082131

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲本 義雄

【電話番号】 03-3369-6479

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 032089

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708842

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 復号方法および復号装置、プログラム、記録再生装置および方法、並びに、再生装置および方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 環  $R$  上の線形符号の復号方法であって、  
前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサムプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含むことを特徴とする復号方法。

【請求項 2】 前記環は、素数のべき乗を元とする有限体であることを特徴とする請求項 1 に記載の復号方法。

【請求項 3】 前記線形符号は、前記有限体上の BCH 符号またはリードソロモン符号を含むことを特徴とする請求項 2 に記載の復号方法。

【請求項 4】 前記低密度化処理ステップは、  
前記検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算ステップと、  
前記線形結合計算ステップの処理により計算された前記線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、前記ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成ステップと  
を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の復号方法。

【請求項 5】 前記低密度化処理ステップは、前記有限体上の前記検査行列を、前記有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開ステップをさらに含み、  
前記線形結合計算ステップは、前記展開ステップの処理により展開された前記検査行列の各行の線形結合を計算すること  
を特徴とする請求項 4 に記載の復号方法。

【請求項 6】 環  $R$  上の線形符号の復号装置であって、  
前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる



低密度化処理を行う低密度化処理手段と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段と  
を備えることを特徴とする復号装置。

【請求項 7】 前記環は、素数のべき乗を元とする有限体である  
ことを特徴とする請求項 6 に記載の復号装置。

【請求項 8】 前記線形符号は、前記有限体上の BCH 符号またはリードソロモン符号を含む  
ことを特徴とする請求項 7 に記載の復号装置。

【請求項 9】 前記低密度化処理手段は、  
前記検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算手段と、  
前記線形結合計算手段により計算された前記線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、前記ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成手段と  
を備えることを特徴とする請求項 6 に記載の復号装置。

【請求項 10】 前記低密度化処理手段は、前記有限体上の前記検査行列を、前記有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開手段をさらに備え、  
前記線形結合計算手段は、前記展開手段により展開された前記検査行列の各行の線形結合を計算する  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の復号装置。

【請求項 11】 畳み込み符号化された線形符号を軟判定復号する軟判定復号手段をさらに備え、  
前記低密度化処理手段は、前記軟判定復号手段により軟判定復号された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる  
ことを特徴とする請求項 6 に記載の復号装置。

【請求項 12】 前記軟判定復号手段による前記軟判定復号、前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 11 に記載の復号装置。

【請求項 13】 環  $R$  上の線形符号の復号をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【請求項 14】 記録媒体に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記情報を再生する記録再生装置であって、

環  $R$  上の線形符号を前記記録媒体に記録する記録手段と、

前記記録手段により記録された前記線形符号を再生する再生手段と、

前記再生手段により再生された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段と

を備えることを特徴とする記録再生装置。

【請求項 15】 前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号であり、

前記低密度化処理手段は、前記検査行列に対して、各次元に対して、前記低密度化処理を行い、

前記復号手段は、前記低密度化された前記検査行列の各次元に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行う

ことを特徴とする請求項 14 に記載の記録再生装置。

【請求項 16】 前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 14 に記載の記録再生装置。

【請求項 17】 記録媒体に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記情報を再生する記録再生装置の記録再生方法であって、

環R上の線形符号の、前記記録媒体への記録を制御する記録制御ステップと、  
前記記録制御ステップの処理により記録が制御された前記線形符号の、再生を  
制御する再生制御ステップと、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列  
に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度  
化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて  
、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップと  
を含むことを特徴とする記録再生方法。

【請求項18】 記録媒体に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記  
情報を再生する処理をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

環R上の線形符号の、前記記録媒体への記録を制御する記録制御ステップと、  
前記記録制御ステップの処理により記録が制御された前記線形符号の、再生を  
制御する再生制御ステップと、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列  
に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度  
化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて  
、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップと  
を含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【請求項19】 記録媒体に記録された情報を再生する再生装置であって、  
前記記録媒体に記録された、環R上の線形符号を再生する再生手段と、  
前記再生手段により再生された前記線形符号の検査行列に対して、値が1であ  
る要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形  
符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段と  
を備えることを特徴とする再生装置。

【請求項20】 前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号で  
あり、

前記低密度化処理手段は、前記検査行列に対して、各次元に対して、前記低密度化処理を行い、

前記復号手段は、前記低密度化された前記検査行列の各次元に対して、サムプロダクトアルゴリズムによる復号を行う

ことを特徴とする請求項 19 に記載の再生装置。

【請求項 21】 前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 19 に記載の再生装置。

【請求項 22】 記録媒体に記録された情報を再生する再生装置の再生方法であって、

前記記録媒体記録された、環 R 上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップと、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサムプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含むことを特徴とする再生方法。

【請求項 23】 記録媒体に記録された情報を再生する処理をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

前記記録媒体記録された、環 R 上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップと、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサムプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は、復号方法および復号装置、プログラム、記録再生装置および方法、並びに、再生装置および方法に関し、特に、環R上線形符号により符号化した符号化データを復号する場合に用いて好適な、復号方法および復号装置、プログラム、記録再生装置および方法、並びに、再生装置および方法に関する。

## 【0002】

## 【従来の技術】

近年、例えば、移動体通信や深宇宙通信といった通信分野、及び地上波又は衛星デジタル放送といった放送分野の研究が著しく進められているが、それに伴い、誤り訂正符号化及び復号の効率化を目的として符号理論に関する研究も盛んに行われている。

## 【0003】

符号性能の理論的限界としては、いわゆるシャノン(C. E. Shannon)の通信路符号化定理によって与えられるシャノン限界が知られている。符号理論に関する研究は、このシャノン限界に近い性能を示す符号を開発することを目的として行われている。近年では、シャノン限界に近い性能を示す符号化方法として、例えば、並列連接畳み込み符号(PCCC(Parallel Concatenated Convolutional Codes))や、縦列連接畳み込み符号(SCCC(Serially Concatenated Convolutional Codes))といった、いわゆるターボ符号化(Turbo coding)と呼ばれる手法が開発されている。また、これらのターボ符号が開発される一方で、古くから知られる符号化方法である低密度パリティ検査符号(Low Density Parity Check codes)(以下、LDPC符号という)が脚光を浴びつつある。

## 【0004】

LDPC符号は、R. G. Gallagerによる「R. G. Gallager, "Low Density Parity Check Codes", Cambridge, Massachusetts: M. I. T. Press, 1963」において最初に提案されたものであり、その後、「D. J. C. MacKay, "Good error correcting codes based on very sparse matrices", Submitted to IEEE Trans. Inf. Theory, IT-45, pp. 399-431, 1999」や、「M. G. Luby, M. Mitzenmacher, M.

A. Shokrollahi and D. A. Spielman, "Analysis of low density codes and improved designs using irregular graphs", in Proceedings of ACM Symposium on Theory of Computing, pp. 249-258, 1998] 等において再注目されるに至ったものである。

#### 【0005】

LDPC符号は、近年の研究により、ターボ符号等と同様に、符号長を長くしていくにしたがって、シャノン限界に近い性能が得られることがわかりつつある。また、LDPC符号は、最小距離が符号長に比例するという性質があることから、その特徴として、ブロック誤り確率特性がよく、さらに、ターボ符号等の復号特性において観測される、いわゆるエラーフロア現象が殆ど生じないことも利点として挙げられる。

#### 【0006】

以下、このようなLDPC符号について具体的に説明する。なお、LDPC符号は、線形符号であり、必ずしも2元である必要はないが、ここでは、2元であるものとして説明する。

#### 【0007】

LDPC符号は、そのLDPC符号を定義する検査行列 (parity check matrix) が疎なものであることを最大の特徴とするものである。ここで、疎な行列とは、行列のコンポーネントの"1"の個数が非常に少なく構成されるものであり、疎な検査行列を $H$ で表すものとする、そのような検査行列としては、例えば、図1に示される $H_{LDPC}$ のように、各行のハミング重み ("1"の数) (weight) が"2"であり、且つ、各列のハミング重みが"4"であるもの等がある。

#### 【0008】

このように、各行及び各列のハミング重みが一定である検査行列 $H$ によって定義されるLDPC符号は、レギュラーLDPC符号と称される。一方、各行及び各列のハミング重みが一定でない検査行列 $H$ によって定義されるLDPC符号は、イレギュラーLDPC符号と称される。

#### 【0009】

このようなLDPC符号による符号化は、検査行列 $H$ に基づいて生成行列 $G$ を生成し

、この生成行列 $G$ を2元の情報メッセージに対して乗算することによって符号語を生成することで実現される。具体的には、LDPC符号による符号化を行う符号化装置は、まず、検査行列 $H$ の転置行列 $H^T$ との間に、式 $GH^T=0$ が成立する生成行列 $G$ を算出する。ここで、生成行列 $G$ が、 $k \times n$ 行列である場合には、符号化装置は、生成行列 $G$ に対して $k$ ビットからなる情報メッセージ（ベクトル $u$ ）を乗算し、 $n$ ビットからなる符号語 $c (= uG)$ を生成する。この符号化装置によって生成された符号語は、値が“0”の符号ビットが“+1”に、値が“1”の符号ビットが“-1”にといったようにマッピングされて送信され、所定の通信路を介して受信側において受信されることになる。

#### 【0010】

一方、LDPC符号の復号は、Gallagerが確率復号(Probabilistic Decoding)と称して提案したアルゴリズムであって、バリアブルノード(variable node (メッセージノード(message node)ともいう。))と、チェックノード(check node)とからなる、いわゆるタナーグラフ(Tanner graph)上での確率伝播(belief propagation)によるメッセージ・パッシング・アルゴリズムによって行うことが可能である。ここで、以下、適宜、バリアブルノードとチェックノードを、単に、ノードともいう。

#### 【0011】

例えば、図1に示されるパリティ検査行列 $H_{LDPC}$ は、図2に示されるようなタナーグラフによって表される。図2のタナーグラフは、図1のパリティ検査行列 $H_{LDPC}$ の各列をバリアブルノード、各行をチェックノードとし、パリティ検査行列 $H_{LDPC}$ の値が「1」の $i$ 行 $j$ 列の要素に対して、 $j$ 番目のバリアブルノードと $i$ 番目のチェックノードをエッジ(edge)としてつないでいる。

#### 【0012】

しかしながら、確率復号においては、各ノード間で受け渡されるメッセージが実数値であることから、解析的に解くためには、連続した値をとるメッセージの確率分布そのものを追跡する必要がある、非常に困難を伴う解析を必要とすることになる。そこで、Gallagerは、LDPC符号の復号アルゴリズムとして、アルゴリズムA又はアルゴリズムBを提案している。

## 【0013】

LDPC符号の復号は、一般的には、図2に示すような手順にしたがって行われる。なお、ここでは、受信値（受信した符号系列）を $U_0(u_{0i})$ とし、チェックノードから出力されるメッセージを $u_j$ とし、バリエブルノードから出力されるメッセージを $v_i$ とする。また、ここでは、メッセージとは、値の"0"らしさを、いわゆる対数尤度比(log likelihood ratio)で表現した実数値である。

## 【0014】

LDPC符号の復号は、一般的には、図3に示すような手順にしたがって行われる。なお、ここでは、受信値（受信した符号系列）を $U_0(u_{0i})$ とし、チェックノードから出力されるメッセージを $u_j$ とし、バリエブルノードから出力されるメッセージを $v_i$ とする。また、ここでは、メッセージとは、値の"0"らしさを、いわゆる対数尤度比(log likelihood ratio)で表現した実数値である。

## 【0015】

まず、LDPC符号の復号においては、図3に示すように、ステップS1において、受信値 $U_0(u_{0i})$ が受信され、メッセージ $u_j$ が"0"に初期化されるとともに、繰り返し処理のカウンタとしての整数をとる変数 $k$ が"0"に初期化され、ステップS2に進む。ステップS2において、受信値 $U_0(u_{0i})$ に基づいて、式(1)に示す演算（バリエブルノードの演算）を行うことによってメッセージ $v_i$ が求められ、さらに、このメッセージ $v_i$ に基づいて、式(2)に示す演算（チェックノードの演算）を行うことによってメッセージ $u_j$ が求められる。

## 【0016】

## 【数1】

$$v_i = u_{0i} + \sum_{j=1}^{d_v-1} u_j \quad \dots (1)$$

## 【0017】

## 【数2】

$$\tanh\left(\frac{u_j}{2}\right) = \prod_{i=1}^{d_c-1} \tanh\left(\frac{v_i}{2}\right) \quad \dots (2)$$

## 【0018】



ここで、式(1)と式(2)における $d_v$ と $d_c$ は、それぞれ、検査行列 $H$ の縦方向(列)と横方向(行)の"1"の個数を示す任意に選択可能とされるパラメータであり、例えば、(3,6)符号の場合には、 $d_v=3$ ,  $d_c=6$ となる。

【0019】

なお、式(1)または(2)の演算においては、それぞれ、メッセージを出力しようとする枝(edge) (バリアブルノードとチェックノードとを結ぶ線) から入力されたメッセージを、和または積演算のパラメータとしては用いないことから、和または積演算の範囲が、1乃至 $d_v-1$ または1乃至 $d_c-1$ となっている。また、式(2)に示す演算は、実際には、2入力 $v_1$ ,  $v_2$ に対する1出力で定義される式(3)に示す関数 $R(v_1, v_2)$ のテーブルを予め作成しておき、これを式(4)に示すように連続的(再帰的)に用いることによって行われる。

【0020】

【数3】

$$x = 2 \tanh^{-1} \{ \tanh(v_1/2) \tanh(v_2/2) \} = R(v_1, v_2) \quad \dots (3)$$

【0021】

【数4】

$$u_j = R(v_1, R(v_2, R(v_3, \dots R(v_{d_c-2}, v_{d_c-1}))) \dots (4)$$

【0022】

ステップS2では、さらに、変数 $k$ が"1"だけインクリメントされ、ステップS3に進む。ステップS3では、変数 $k$ が所定の繰り返し復号回数 $N$ よりも大きいかな否かが判定される。ステップS3において、変数 $k$ が $N$ よりも大きくないと判定された場合、ステップS2に戻り、以下、同様の処理が繰り返される。

【0023】

また、ステップS3において、変数 $k$ が $N$ よりも大きいと判定された場合、ステップS4に進み、式(5)に示す演算を行うことによって最終的に出力する復号結果としてのメッセージ $v_i$ が求められて出力され、LDPC符号の復号処理が終了する。

【0024】

【数 5】

$$v_i = u_{0i} + \sum_{j=1}^{d_v} u_j \quad \cdot \cdot \cdot (5)$$

【0025】

ここで、式(5)の演算は、式(1)の演算とは異なり、バリアブルノードに接続している全ての枝からの入力メッセージを用いて行われる。

【0026】

このようなLDPC符号の復号は、例えば(3,6)符号の場合には、図4に示すように、各ノード間でメッセージの授受が行われる。なお、図4における“=”で示すノード(バリアブルノード)では、式(1)に示した演算が行われ、“+”で示すノード(チェックノード)では、式(2)に示した演算が行われる。特に、アルゴリズムAにおいては、メッセージを2元化し、“+”で示すノードにて、 $d_c-1$ 個の入力メッセージの排他的論理和演算を行い、“=”で示すノードにて、受信値Rに対して、 $d_v-1$ 個の入力メッセージが全て異なるビット値であった場合には、符号を反転して出力する。

【0027】

また、一方で、近年、LDPC符号の復号の実装法に関する研究も行われている。実装方法について述べる前に、まず、LDPC符号の復号を摸式化して説明する。

【0028】

図5は、(3,6)LDPC符号(符号化率1/2、符号長12)の検査行列(parity check matrix)の例である。LDPC符号の検査行列は、図6のように、タナーグラフを用いて書き表すことができる。ここで、図6において、“+”で表されるのが、チェックノードであり、“=”で表されるのが、バリアブルノードである。チェックノードとバリアブルノードは、それぞれ、検査行列の行と列に対応する。チェックノードとバリアブルノードとの間の結線は、枝(edge)であり、検査行列の“1”に相当する。即ち、検査行列の第j行第i列のコンポーネントが1である場合には、図6において、上からi番目のバリアブルノード(“=”のノード)と、上からj番目のチェックノード(“+”のノード)とが、枝により接続される。枝は、バリアブルノードに対応する符号ビットが、チェックノードに対応する拘束条件を

持つことを表わす。なお、図6は、図5の検査行列のタナーグラフとなっている。

### 【0029】

LDPC符号の復号方法としては、サンプロダクトアルゴリズム (Sum Product Algorithm)がある (例えば、非特許文献1参照)。

### 【0030】

このサンプロダクトアルゴリズムでは、バリエブルノードの演算とチェックノードの演算とが繰り返行われる。

### 【0031】

バリエブルノードでは、図7のように、式(1)の演算(バリエブルノード演算)を行う。すなわち、図7において、計算しようとしている枝に対応するメッセージ $v_i$ は、バリエブルノードに繋がっている残りの枝からのメッセージ $u_1$ および $u_2$ と、受信情報 $u_{0i}$ を用いて計算される。他の枝に対応するメッセージも同様に計算される。

### 【0032】

次に、チェックノードの演算について説明する前に、式(2)を、式 $a \times b = \exp\{\ln(|a|) + \ln(|b|)\} \times \text{sign}(a) \times \text{sign}(b)$ の関係を用いて、式(6)のように書き直す。但し、 $\text{sign}(x)$ は、 $x \geq 0$ のとき1であり、 $x < 0$ のとき-1である。

### 【0033】

#### 【数6】

$$\begin{aligned} u_j &= 2 \tanh^{-1} \left( \prod_{i=1}^{d_c-1} \tanh \left( \frac{v_i}{2} \right) \right) \\ &= 2 \tanh^{-1} \left[ \exp \left\{ \sum_{i=1}^{d_c-1} \ln \left( \left| \tanh \left( \frac{v_i}{2} \right) \right| \right) \right\} \times \prod_{i=1}^{d_c-1} \text{sign} \left( \tanh \left( \frac{v_i}{2} \right) \right) \right] \\ &= 2 \tanh^{-1} \left[ \exp \left\{ - \left( \sum_{i=1}^{d_c-1} - \ln \left( \tanh \left( \frac{|v_i|}{2} \right) \right) \right) \right\} \times \prod_{i=1}^{d_c-1} \text{sign}(v_i) \right] \\ &\quad \dots (6) \end{aligned}$$

### 【0034】

更に、 $x \geq 0$ において、 $\phi(x) = \ln(\tanh(x/2))$ と定義すると、 $\phi^{-1}(x) = 2 \tanh^{-1}(e^{-x})$ であるから、式(6)は、式(7)のように書くことができる。

【0035】

【数7】

$$u_j = \phi^{-1} \left( \sum_{i=1}^{d_c-1} \phi(|v_i|) \right) \times \prod_{i=1}^{d_c-1} \text{sign}(v_i) \quad \dots (7)$$

【0036】

チェックノードでは、図8のように、式(7)の演算(チェックノード演算)を行う。すなわち、図8において、計算しようとしている枝に対応するメッセージ $u_j$ は、チェックノードに繋がっている残りの枝からのメッセージ $v_1, v_2, v_3, v_4, v_5$ を用いて計算される。他の枝に対応するメッセージも同様に計算される。

【0037】

なお、関数 $\phi(x)$ は、 $\phi(x) = \ln((e^x+1)/(e^x-1))$ とも表すことができ、 $x > 0$ において、 $\phi(x) = \phi^{-1}(x)$ である。関数 $\phi(x)$ および $\phi^{-1}(x)$ をハードウェアに実装する際には、LUT(Look Up Table)を用いて実装される場合があるが、両者共に同一のLUTとなる。

【0038】

サンプロダクトアルゴリズムをハードウェアに実装する場合、式(1)で表されるバリエブルノード演算および式(7)で表されるチェックノード演算とを、適度な回路規模と動作周波数で繰り返し行うことが必要である。

【0039】

また、このようなサンプロダクトアルゴリズムを適用したLDPC符号の演算コストの算出方法も広く知られている(例えば、非特許文献2参照)。

【0040】

以上のようにサンプロダクトアルゴリズム(SPA)を適応して良い復号性能を得るには、パリティ検査行列が低密度である必要がある。

【0041】

また、その他の一般の線形符号、例えば、リードソロモン(Reed Solomon)符号等のパリティ検査行列 $H$ は、定義体の原始根を $\alpha$ とした場合、図9のように表

される。図 9 に示されるように、線形符号のパリティ検査行列  $H$  は、一般に低密度ではない。このような低密度でないリードソロモン符号には、ユークリッド (Euclid) のアルゴリズム等を用いた復号 (以下、通常復号と称する) が行われる。

#### 【0042】

図 10 は、リードソロモン符号を用いて誤り訂正を行う誤り訂正システムの構成例を示すブロック図である。図 10 に示される誤り訂正システムは、例えば、デジタルテレビ等のデジタル通信システムに用いられるシステムである。

#### 【0043】

図 10 の誤り訂正システムにおいては、送信側である符号化装置 10 より送信されたデジタル情報が、例えばインターネットに代表される通信路 21 を介して、受信側である復号装置 30 に供給される。

#### 【0044】

符号化装置 10 は、外部より供給された送信用のデジタル情報を、リードソロモン符号を用いて符号化するリードソロモン符号化部 11、符号化されたデジタル情報の並べ替えを行うインタリーバ 12、畳み込み符号化を行う畳み込み符号化部 13、並びに、通信路 21 を介して、復号装置 30 と通信を行う通信処理部 14 からなる。

#### 【0045】

また、復号装置 30 は、通信路 21 を介して供給された送信語を取得する通信処理部 31、取得した送信語に畳み込み復号を行う畳み込み復号部 32、並べ替えられた情報を元の順番に戻すデインタリーバ 33、並びに、リードソロモン復号 (通常復号) を行うリードソロモン復号部 34 からなる。

#### 【0046】

符号化装置 10 の外部より供給された送信用のデジタル情報は、符号化装置 10 のリードソロモン符号化部 11 において、リードソロモン符号化された後、インタリーバ 12 に供給される。インタリーバ 12 は、主に通信路 21 において発生するバースト的誤りを拡散させるために、情報の並べ替え (インタリービング) を行う。リードソロモン符号は、複数ビットを 1 シンボルとする誤り訂正を

行うので、インタリーバ 21 は、シンボル単位でバースト的誤りを拡散するシンボルインタリービングを行う。

#### 【0047】

並べ替えが行われた送信用のデジタル情報は、さらに、畳み込み符号化部 13 において、複数の情報ブロックに基づいて逐次的に符号系列が定まる畳み込み符号が行われる。例えば、拘束長  $K$  の畳み込み符号化部 13 は、インタリーバ 12 よりデジタル情報が  $k$  ビットの情報ブロック毎に供給されると、今回供給された情報ブロックだけでなく、過去に供給された情報ブロックも含めた  $K$  個の情報ブロックに基づいて、 $n$  ビットの符号ブロックに符号化する。

#### 【0048】

そして、畳み込み符号化されたデジタル情報は、通信処理部 14 において、送信可能なデータ形式に変換され、通信路 21 を介して復号装置 30 に供給される。

#### 【0049】

復号装置 30 は、通信処理部 31 において、有線または無線の通信路 21 を介して供給された送信語を取得する。取得された送信語は、畳み込み復号部 32 により、畳み込み復号が行われる。デインタリーバ 33 は、畳み込み復号された情報を取得すると、符号化装置 10 のインタリーバ 12 において行われたインタリービングに対応した方法で情報の並び替えを行い、並び替えられた情報を元の順序に戻す処理（デインタリービング）を行う。リードソロモン復号部 34 は、元の順序に戻されたデジタル情報に、通常復号によるリードソロモン復号処理を行い、符号化される前のデジタル情報を再現し、その情報を復号装置 30 の外部に出力する。

#### 【0050】

以上のようにして、図 10 の誤り訂正システムは、通信の際に発生した誤りを訂正し、より正確な通信を行えるようにする。

#### 【0051】

図 11 は、リードソロモン符号を用いて誤り訂正を行う誤り訂正システムを適用した記録再生装置の構成例を示すブロック図である。図 11 に示される記録再

生装置は、例えば、DVD(Digital Versatile Disc)レコードプレーヤ等のデジタル記録媒体記録再生装置である。

#### 【0052】

図11の記録再生装置50は、外部より供給されたデジタル情報を、符号化処理部60において符号化し、記録再生処理部70において記録媒体72に記録する。また、記録再生装置50は、記録媒体72に記録されているデジタル情報を、記録再生処理部70において再生し、復号処理部80において復号処理を行って元のデジタル情報を取得し、その情報を外部に出力する。

#### 【0053】

符号化処理部60は、デジタル情報に互いに異なる次元に関するリードソロモン符号を行う第1リードソロモン符号化部61-1乃至第nリードソロモン符号化部61-nからなる。

#### 【0054】

記録再生処理部70は、符号化処理部60より供給された情報を記録媒体72に記録する記録部71、例えば光ディスク等の記録媒体72、記録媒体72に記録されている情報を再生する再生部73からなる。

#### 【0055】

また、復号処理部80は、符号化処理部60に対応する復号器であり、デジタル情報に互いに異なる次元に関するリードソロモン復号（通常復号）を行う第1リードソロモン復号部81-1乃至第nリードソロモン復号部81-nからなる。

#### 【0056】

符号化処理部60の外部より供給されたデジタル情報は、第1リードソロモン符号化部61-1において1次元目に関するリードソロモン符号化が行われる。続いて、デジタル情報は、第2リードソロモン符号化部61-2乃至第nリードソロモン符号化部61-nの各部において、2次元目乃至n次元目までの各次元目に関するリードソロモン符号が行われる。第nリードソロモン符号化部61-nによる符号化が終了すると、符号化処理部60は、符号化されたデジタル情報を記録再生処理部70に供給する。記録再生処理部70の記録部71は、

符号化処理部 60 より供給されたデジタル情報を記録媒体 72 に記録する。

【0057】

記録再生処理部 70 の再生部 73 は、記録媒体 72 に記録されているデジタル情報（符号化されたデジタル情報）を再生し、復号処理部 80 に供給する。

【0058】

復号処理部 80 は、第 1 リードソロモン復号部 81-1 乃至第  $n$  リードソロモン復号部 81- $n$  の各部において、再生部 73 より供給されたデジタル情報に、各次元目に関するリードソロモン復号（通常復号）を行い、元のデジタル情報を復元する。なお、復号処理部 80 は、符号化処理部 60 の場合と逆に、まず、第  $n$  リードソロモン復号部 81- $n$  において第  $n$  次元目に関するリードソロモン復号から行い、 $n-1$  次元目、 $n-2$  次元目と順に次元数を下げるようにリードソロモン復号を行い、最後に第 1 次元目に関するリードソロモン復号を行う。復号処理部 80 は、復元した元のデジタル情報を記録再生装置 50 の外部に出力する。

【0059】

以上のようにして、図 11 の記録再生装置 50 は、情報の記録や再生の際に発生した情報の誤りを訂正する。

【0060】

【非特許文献 1】

和田山正、”低密度パリティ検査符号と sum-product アルゴリズムについて”、[online]、平成 13 年 6 月 22 日、岡山県立大学、[平成 15 年 5 月 19 日検索]、インターネット、<URL:http://vega.c.oka-pu.ac.jp/~wadayama/pdf/LDPC.pdf>

【0061】

【非特許文献 2】

Matthew C. Davey, David J C MacKay” Low Density Parity Check Codes over  $GF(q)$ ”

【0062】

【発明が解決しようとする課題】



以上のようなリードソロモン符号やBCH (Bose-Chaudhuri-Hocquenghem) 符号等に対する通常復号は、受信した値を「0」または「1」のみで推定する硬判定の受信語に対して行う復号方法である。

#### 【0063】

しかしながら、軟判定の受信語が得られる場合、通常、軟判定受信語を用いての復号性能に比べて、硬判定受信語を用いての復号性能は劣るので、軟判定受信語が得られるシステムにおいて、上述したようにリードソロモン符号を通常復号するようにした場合、その復号性能が良くならないという課題があった。

#### 【0064】

そこで、上述したようなサンプロダクトアルゴリズムを用いて復号する方法が考えられるが、一般の線形符号のパリティ検査行列は、通常、低密度ではないため、復号性能は良くならないという課題があった。また、仮に、与えられたパリティ検査行列が低密度であるとしても、大きな有限体上でのサンプロダクトアルゴリズムは、非常に複雑であり、その演算コストも大きくなってしまいう課題もあった。

#### 【0065】

本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、一般の線形符号に対する復号方法としてサンプロダクトアルゴリズムを適用した場合に、容易に、性能の良い復号処理を行うことができるようにするものである。

#### 【0066】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明の復号方法は、環 $R$ 上の線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップと、低密度化処理ステップの処理により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含むことを特徴とする。

#### 【0067】

前記環は、素数のべき乗を元とする有限体であることができる。

#### 【0068】

前記線形符号は、有限体上のBCH符号またはリードソロモン符号を含むことが

できる。

#### 【0069】

前記低密度化処理ステップは、検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算ステップと、線形結合計算ステップの処理により計算された線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成ステップとを含むようにすることができる。

#### 【0070】

前記低密度化処理ステップは、有限体上の検査行列を、有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開ステップをさらに含み、線形結合計算ステップは、展開ステップの処理により展開された検査行列の各行の線形結合を計算することができる。

#### 【0071】

本発明の復号装置は、環  $R$  上の線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段と、低密度化処理手段により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段とを備えることを特徴とする。

#### 【0072】

前記環は、素数のべき乗を元とする有限体であることができる。

#### 【0073】

前記線形符号は、有限体上の BCH 符号またはリードソロモン符号を含むことができる。

#### 【0074】

前記低密度化処理手段は、検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算手段と、線形結合計算手段により計算された線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成手段とを備えるようにすることができる。

#### 【0075】

前記低密度化処理手段は、有限体上の検査行列を、有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開手段をさらに備え、線形結合計算手段は、展開手段により展開された検査行列の各行の線形結合を計算することができる。

#### 【0076】

畳み込み符号化された線形符号を軟判定復号する軟判定復号手段をさらに備え、低密度化処理手段は、軟判定復号手段により軟判定復号された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させることができる。

#### 【0077】

前記軟判定復号手段による軟判定復号、低密度化処理手段による低密度化処理、および復号手段による復号を繰り返し実行することができる。

#### 【0078】

本発明の第1のプログラムは、環R上の線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップと、低密度化処理ステップの処理により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとをコンピュータに実行させることを特徴とする。

#### 【0079】

本発明の記録再生装置は、環R上の線形符号を記録媒体に記録する記録手段と、記録手段により記録された線形符号を再生する再生手段と、再生手段により再生された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段と、低密度化処理手段により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段とを備えることを特徴とする。

#### 【0080】

前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号であり、低密度化処理手段は、検査行列に対して、各次元に対して、低密度化処理を行い、復号手段は、低密度化された検査行列の各次元に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行うことができる。

#### 【0081】

前記低密度化処理手段による低密度化処理、および復号手段による復号を繰り返し実行することができる。

#### 【0082】

本発明の記録再生方法は、環R上の線形符号の、記録媒体への記録を制御する記録制御ステップと、記録制御ステップの処理により記録が制御された線形符号の、再生を制御する再生制御ステップと、再生制御ステップの処理により再生が制御された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、低密度化処理ステップの処理により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含むことを特徴とする。

#### 【0083】

本発明の第2のプログラムは、環R上の線形符号の、前記記録媒体への記録を制御する記録制御ステップと、前記記録制御ステップの処理により記録が制御された前記線形符号の、再生を制御する再生制御ステップと、前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとをコンピュータに実行させることを特徴とする。

#### 【0084】

本発明の再生装置は、記録手段により記録された、環R上の線形符号を再生する再生手段と、再生手段により再生された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段と、低密度化処理手段により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段とを備えることを特徴とする。

#### 【0085】

前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号であり、低密度化処理手段は、検査行列に対して、各次元に対して、低密度化処理を行い、復号手段は、低密度化された検査行列の各次元に対して、サンプロダクトアルゴリズムによ

る復号を行うことができる。

#### 【0086】

前記低密度化処理手段による低密度化処理、および復号手段による復号を繰り返し実行することができる。

#### 【0087】

本発明の再生方法は、記録媒体記録された、環R上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップと、再生制御ステップの処理により再生が制御された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、低密度化処理ステップの処理により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとを含むことを特徴とする。

#### 【0088】

本発明の第3のプログラムは、記録媒体記録された、環R上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップと、再生制御ステップの処理により再生が制御された線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップと、低密度化処理ステップの処理により低密度化された検査行列を用いて、線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップとをコンピュータに実行させることを特徴とする。

#### 【0089】

本発明においては、環R上の線形符号の検査行列に対して、値が1である要素の密度が低密度化され、その低密度化された検査行列が用いられ、線形符号がサンプロダクトアルゴリズムにより復号される。

#### 【0090】

##### 【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を説明するが、請求項に記載の構成要件と、発明の実施の形態における具体例との対応関係を例示すると、次のようになる。この記載は、請求項に記載されている発明をサポートする具体例が、発明の実施の形態に記載されていることを確認するためのものである。従って、発明の実施の形態中には記載されているが、構成要件に対応するものとして、ここには記載されて

いない具体例があったとしても、そのことは、その具体例が、その構成要件に対応するものではないことを意味するものではない。逆に、具体例が構成要件に対応するものとしてここに記載されていたとしても、そのことは、その具体例が、その構成要件以外の構成要件には対応しないものであることを意味するものでもない。

### 【0091】

さらに、この記載は、発明の実施の形態に記載されている具体例に対応する発明が、請求項に全て記載されていることを意味するものではない。換言すれば、この記載は、発明の実施の形態に記載されている具体例に対応する発明であって、この出願の請求項には記載されていない発明の存在、すなわち、将来、分割出願されたり、補正により追加される発明の存在を否定したりするものではない。

### 【0092】

〔請求項1〕 環 $R$ 上の線形符号の復号方法であって、

前記線形符号の検査行列（例えば、図15のパリティ検査行列 $H$ ）に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップ（例えば、図13のステップS21）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列（例えば、図17のパリティ検査行列 $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサンプログトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図13のステップS22）と

を含むことを特徴とする復号方法。

〔請求項2〕 前記環は、素数のべき乗を元とする有限体であることを特徴とする請求項1に記載の復号方法。

〔請求項3〕 前記線形符号は、前記有限体上のBCH符号またはリードソモン符号を含む

ことを特徴とする請求項2に記載の復号方法。

〔請求項4〕 前記低密度化処理ステップは、前記検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算ステップ（例えば、図14のステップS41）と、

前記線形結合計算ステップの処理により計算された前記線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、前記ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成ステップ（例えば、図14のステップS43）とを含むことを特徴とする請求項1に記載の復号方法。

〔請求項5〕 前記低密度化処理ステップは、前記有限体上の前記検査行列を、前記有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開ステップ（例えば、図21のステップS61）をさらに含み、

前記線形結合計算ステップは、前記展開ステップの処理により展開された前記検査行列の各行の線形結合を計算する

ことを特徴とする請求項4に記載の復号方法。

〔請求項6〕 環 $R$ 上の線形符号の復号装置（例えば、図12の復号装置100）であって、

前記線形符号の検査行列（例えば、図15のパリティ検査行列 $H$ ）に対して、値が1である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段（例えば、図12の低密度化処理部110）と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列（例えば、図17のパリティ検査行列 $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段（例えば、図12のLDPC復号部121）とを備えることを特徴とする復号装置。

〔請求項7〕 前記環は、素数のべき乗を元とする有限体であることを特徴とする請求項6に記載の復号装置。

〔請求項8〕 前記線形符号は、前記有限体上のBCH符号またはリードソロモン符号を含む

ことを特徴とする請求項7に記載の復号装置。

〔請求項9〕 前記低密度化処理手段は、前記検査行列の各行の線形結合を計算する線形結合計算手段（例えば、図12の線形結合計算部111）と、

前記線形結合計算手段により計算された前記線形結合によって得られるベク

トルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、前記ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たな検査行列を作成する検査行列作成手段（例えば、図 12 のパリティ検査行列作成部 112）とを備えることを特徴とする請求項 6 に記載の復号装置。

〔請求項 10〕 前記低密度化処理手段は、前記有限体上の前記検査行列を、前記有限体の部分体上に所定の次元で展開する展開手段（例えば、図 20 の展開処理部 161）をさらに備え、

前記線形結合計算手段は、前記展開手段により展開された前記検査行列の各行の線形結合を計算する

ことを特徴とする請求項 9 に記載の復号装置。

〔請求項 11〕 畳み込み符号化された線形符号を軟判定復号する軟判定復号手段（例えば、図 25 の畳み込み復号部 232）をさらに備え、

前記低密度化処理手段は、前記軟判定復号手段により軟判定復号された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる

ことを特徴とする請求項 6 に記載の復号装置。

〔請求項 12〕 前記軟判定復号手段による前記軟判定復号、前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 11 に記載の復号装置。

〔請求項 13〕 環  $R$  上の線形符号の復号をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

前記線形符号の検査行列（例えば、図 15 のパリティ検査行列  $H$ ）に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理ステップ（例えば、図 13 のステップ  $S21$ ）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列（例えば、図 17 のパリティ検査行列  $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサムプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図 13 のステップ  $S22$ ）と

を含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。



〔請求項 14〕 記録媒体（例えば、図 27 の記録媒体 272）に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記情報を再生する記録再生装置（例えば、図 27 の記録再生装置 250）であって、

環 R 上の線形符号を前記記録媒体に記録する記録手段（例えば、図 27 の記録部 271）と、

前記記録手段により記録された前記線形符号を再生する再生手段（例えば、図 27 の再生部 273）と、

前記再生手段により再生された前記線形符号の検査行列（例えば、図 15 のパリティ検査行列 H）に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段（例えば、図 12 の低密度化処理部 110）と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列（例えば、図 17 のパリティ検査行列  $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段（例えば、図 12 の LDPC 復号部 121）と

を備えることを特徴とする記録再生装置。

〔請求項 15〕 前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号であり、

前記低密度化処理手段は、前記検査行列に対して、各次元に対して、前記低密度化処理を行い、

前記復号手段は、前記低密度化された前記検査行列の各次元に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行う

ことを特徴とする請求項 14 に記載の記録再生装置。

〔請求項 16〕 前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 14 に記載の記録再生装置。

〔請求項 17〕 記録媒体（例えば、図 27 の記録媒体 272）に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記情報を再生する記録再生装置（例えば、図 27 の記録再生装置 250）の記録再生方法であって、

環 R 上の線形符号の、前記記録媒体への記録を制御する記録制御ステップ（例えば、図 27 の記録部 271 が実行する記録処理）と、

前記記録制御ステップの処理により記録が制御された前記線形符号の、再生を制御する再生制御ステップ（例えば、図 27 の再生部 273 が実行する再生処理）と、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップ（例えば、図 13 のステップ S21）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図 13 のステップ S22）と

を含むことを特徴とする記録再生方法。

〔請求項 18〕 記録媒体（例えば、図 27 の記録媒体 272）に情報を記録し、前記記録媒体に記録された前記情報を再生する処理をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

環 R 上の線形符号の、前記記録媒体への記録を制御する記録制御ステップ（例えば、図 27 の記録部 271 が実行する記録処理）と、

前記記録制御ステップの処理により記録が制御された前記線形符号の、再生を制御する再生制御ステップ（例えば、図 27 の再生部 273 が実行する再生処理）と、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップ（例えば、図 13 のステップ S21）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図 13 のステップ S22）と

を含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

〔請求項 19〕 記録媒体（例えば、図 29 の記録媒体 272）に記録された情報を再生する再生装置（例えば、図 29 の再生装置 350）であって、

前記記録手段により記録された、環 R 上の線形符号を再生する再生手段（例えば、図 29 の再生部 273）と、

前記再生手段により再生された前記線形符号の検査行列（例えば、図 15 のパリティ検査行列  $H$ ）に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理手段（例えば、図 12 の低密度化処理部 110）と、

前記低密度化処理手段により低密度化された前記検査行列（例えば、図 17 のパリティ検査行列  $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号手段（例えば、図 12 の LDPC 復号部 121）と

を備えることを特徴とする再生装置。

〔請求項 20〕 前記線形符号は、所定の次元で積符号化された線形符号であり、

前記低密度化処理手段は、前記検査行列に対して、各次元に対して、前記低密度化処理を行い、

前記復号手段は、前記低密度化された前記検査行列の各次元に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行う

ことを特徴とする請求項 19 に記載の再生装置。

〔請求項 21〕 前記低密度化処理手段による前記低密度化処理、および前記復号手段による前記復号を繰り返し実行する

ことを特徴とする請求項 19 に記載の再生装置。

〔請求項 22〕 記録媒体（例えば、図 29 の記録媒体 272）に記録された情報を再生する再生装置（例えば、図 29 の再生装置 350）の再生方法であって、

前記記録媒体記録された、環  $R$  上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップ（例えば、図 29 の再生部 273 が実行する再生処理）と、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列（例えば、図 15 のパリティ検査行列  $H$ ）に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップ（例えば、図 13 のステップ  $S21$ ）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列（例えば、図 17 のパリティ検査行列  $H_{sp4}$ ）を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図 13 のステップ  $S22$ ）

と

を含むことを特徴とする再生方法。

【請求項 23】 記録媒体（例えば、図 27 の記録媒体 272）に記録された情報を再生する処理をコンピュータに行わせるプログラムにおいて、

前記記録媒体記録された、環 R 上の線形符号の再生を制御する再生制御ステップ（例えば、図 29 の再生部 273 が実行する再生処理）と、

前記再生制御ステップの処理により再生が制御された前記線形符号の検査行列に対して、値が 1 である要素の密度を低密度化させる低密度化処理を行う低密度化処理ステップ（例えば、図 13 のステップ S21）と、

前記低密度化処理ステップの処理により低密度化された前記検査行列を用いて、前記線形符号をサンプロダクトアルゴリズムにより復号する復号ステップ（例えば、図 13 のステップ S22）と

を含む処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

#### 【0093】

以下、本発明の実施の形態について説明するが、最初に本発明が適用される技術の例について説明する。

#### 【0094】

図 12 は、本発明を適用した復号装置の構成例を示すブロック図である。

#### 【0095】

図 12 において、復号装置 100 は、例えば BCH 符号に対応する復号装置であり、環 R 上の（または有限体上の）受信語のパリティ検査行列を十分低密度な行列に変換する低密度化処理部 110 および低密度化されたパリティ検査行列を用いて、受信語を復号する LDPC 復号部 121 からなる。

#### 【0096】

低密度化処理部 110 は、パリティ検査行列の行の線形結合を計算する線形結合計算部 111、線形結合された行を用いて、十分疎なパリティ検査行列を作成するパリティ検査行列作成部 112、および作成されたパリティ検査行列のランクが元のパリティ検査行列のランクと同じであるか否かを判定する判定処理部 113 により構成される。

## 【0097】

線形結合計算部111は、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列の各行の線形結合を、全ての組み合わせについて計算する。すなわち、線形結合計算部111は、 $n$ 行のパリティ検査行列に対して、 $2^n$ 通りの組み合わせで線形結合を計算する。線形結合計算部111は、計算結果および受信語をパリティ検査行列作成部112に供給する。

## 【0098】

パリティ検査行列作成部112は、線形結合計算部111より供給された計算結果、すなわち、線形結合された行の中から、所定の条件に従って行を抽出し、その抽出した行により構成されるパリティ検査行列を作成する。パリティ検査行列作成部112は、例えば、線形結合された行の中から、値が「1」の要素の数が所定の数以下の行を抽出する等、作成したパリティ検査行列の密度が疎になるように条件を設定し、その条件に該当する行を抽出する。パリティ検査行列作成部112は、作成したパリティ検査行列および受信語を判定処理部113に供給する。なお、後述するように、判定処理部113において、作成したパリティ検査行列のランクが元のパリティ検査行列のランクと異なると判定された場合、パリティ検査行列作成部112は、再度、行の抽出を行い、新たなパリティ検査行列を作成する。その際、パリティ検査行列作成部112は、前回行った行の抽出の条件を変更し、前回作成されたパリティ検査行列と異なる行で構成されるパリティ検査行列を作成する。

## 【0099】

判定処理部113は、パリティ検査行列作成部112において作成されたパリティ検査行列のランク（階数）が、元のパリティ検査行列のランクと一致するかどうかを判定する。ランクが一致すると判定した場合、判定処理部113は、受信語と、作成されたパリティ検査行列をLDPC復号部121に供給する。ランクが一致しないと判定した場合、判定処理部113は、処理をパリティ検査行列作成部112に戻し、新たなパリティ検査行列を作成させる。

## 【0100】

以上のように、低密度化処理部110は、受信語に含まれるBCH符号のパリテ

ィ検査行列の密度を低密度化させ、その低密度化されたパリティ検査行列を受信語とともにLDPC復号部121に供給する。

#### 【0101】

LDPC復号部112は、取得した低密度化されたパリティ検査行列を用いて、受信語をサンプロダクトアルゴリズムにより復号し、復号された受信語を復号装置100の外部に出力する。

#### 【0102】

以上のように、低密度化処理部110が受信語のパリティ検査行列を低密度化させることにより、LDPC復号部121は、その低密度のパリティ検査行列を用いて、サンプロダクトアルゴリズムを用いた復号処理を行うことができ、性能の良い復号処理を行うことができる。また、低密度化処理部110が受信語のパリティ検査行列を、線形結合を用いて低密度化させるので、LDPC復号部121は、部分体上の復号を行うことができ、演算コストを削減することもできる。すなわち、サンプロダクトアルゴリズムを用いた復号処理を行う前に、パリティ検査行列の密度を、線形結合により低密度化させることにより、復号装置100は、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。

#### 【0103】

次に、以上のような復号装置による復号処理について、図13のフローチャートを参照して説明する。

#### 【0104】

最初に、復号装置100の低密度化処理部110は、ステップS21において、パリティ検査行列低密度化処理を実行し、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列の密度を疎にする。パリティ検査行列低密度化処理の詳細については、図14のフローチャートを参照して後述する。

#### 【0105】

そして、ステップS22において、LDPC復号部121は、ステップS21の処理により低密度化されたパリティ検査行列を利用し、サンプロダクトアルゴリズム（SPA）を用いた復号処理を行う。ステップS22の処理が終了すると、LDPC復号部121は、その受信語に対する復号処理を終了する。なお、復号装置100

0 は、上述した復号処理を受信語毎（ブロック毎）に実行する。

#### 【0106】

次に、図14のフローチャートを参照して、図13のステップS21において実行されるパリティ検査行列低密度化処理の詳細を説明する。

#### 【0107】

最初に、ステップS41において、低密度化処理部110の線形結合計算部111は、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列の各行を用いて、全ての組み合わせで線形結合を行い、結合結果を計算する。

#### 【0108】

線形結合を計算した線形結合計算部111は、ステップS42において、後述するように行の抽出条件となる変数nの値を、例えば「1」等の初期値に設定する。そして、線形結合計算部111は、受信語、線形結合の計算結果、および変数nをパリティ検査行列作成部112に供給し、ステップS43に処理を進める。

#### 【0109】

ステップS43において、パリティ検査行列作成部112は、取得した線形結合結果のそれぞれについて値が「1」の要素の数weightを算出し、全ての線形結合結果の中から、値が「1」の要素の数weightが変数n以下であるものを抽出し、それらを行とする新たな低密度のパリティ検査行列を作成する。

#### 【0110】

すなわち、パリティ検査行列作成部112は、線形結合計算部111において計算された線形結合によって得られるベクトルの集合の中から、符号補空間を張る、より重みの低いベクトル部分集合を抽出し、ベクトル部分集合の全ベクトルを行成分とする新たなパリティ検査行列を作成する。

#### 【0111】

新たなパリティ検査行列を作成したパリティ検査行列作成部112は、ステップS44に処理を進め、変数nの値に「1」を加算し、受信語、作成したパリティ検査行列、および、変数nを判定処理部113に供給する。

#### 【0112】

受信語、作成したパリティ検査行列、および、変数  $n$  を供給された判定処理部 113 は、ステップ S45 において、受信語に含まれる元のパリティ検査行列に関する情報に基づいて、元のパリティ検査行列のランク（階数）と、低密度のパリティ検査行列のランク（階数）とが一致するか否かを判定する。

#### 【0113】

例えば、低密度のパリティ検査行列のランクが低く、元のパリティ検査行列と一致しないと判定した場合、判定処理部 113 は、ステップ S43 に処理を戻し、それ以降の処理を繰り返す。すなわち、判定処理部 113 は、パリティ検査行列作成部 112 にその判定結果を供給し、再度、パリティ検査行列作成部 112 に低密度のパリティ検査行列を作成させる。その際、線形結合結果より抽出する条件となる変数  $n$  の値が前回の処理の時と異なるので、パリティ検査行列作成部 112 は、前回と異なる行を有する（前回と要素が異なる）低密度のパリティ検査行列を作成することができる。

#### 【0114】

ステップ S45 において、元のパリティ検査行列のランク（階数）と、低密度のパリティ検査行列のランク（階数）とが一致すると判定した場合、判定処理部 113 は、ステップ S46 に処理を進め、受信語、および、作成された低密度のパリティ検査行列を LDPC 復号部 121 に出力し、図 13 のステップ S22 に処理を戻す。

#### 【0115】

以上のように、復号処理、およびパリティ検査行列低密度化処理を実行することにより、復号装置 100 は、サンプロダクトアルゴリズムを用いた復号処理を行う前に、パリティ検査行列の密度を線形結合により低密度化させるので、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。

#### 【0116】

次に、以上の復号装置 100 を用いた具体的な低密度化の例について説明する。

#### 【0117】

以下においては、有限体を素数のべき乗を元とする有限体  $GF(2^4)$  ( $GF(2)$ ) の



4次拡大体)とし、線形符号Cとして、符号長15、情報長7の(15, 7)-BCH符号を復号する場合について説明する。

#### 【0118】

線形符号Cのパリティ検査行列Hが、例えば、図15のように与えられるとする。図15に示されるパリティ検査行列Hは8行15列の行列であり、このパリティ検査行列Hに対応するタナグラフは図16のように表される。図16のタナグラフは、図15に示されるパリティ検査行列Hの各列を「=」で示されるバリアブルノードで表し、各行を「+」で示されるチェックノードで表したグラフであり、バリアブルノードとチェックノードを結ぶエッジ (edge) の密度が高くなっており、図15のパリティ検査行列Hが低密度の行列でないことを示している。

#### 【0119】

図12の低密度化処理部110は、上述したように、この8行を用いて線形結合を行い、「1」の密度が少ない $2^8=256$ 個の行ベクトルを作成する。そして、低密度化処理部110は、「1」の個数が4以下の行ベクトルを15個抽出し、15元ベクトルを縦に並べて作成した、図17に示されるような新しい行列 $H_{sp4}$ を作成する。図17に示される行列 $H_{sp4}$ に対応するタナグラフは、図18に示されるようになる。図17に示される行列 $H_{sp4}$ の行数および列数がともに15であるので、図18に示されるタナグラフのバリアブルノードおよびチェックノードの数がともに15個になり、図16の場合と比較して、バリアブルノードとチェックノードを結ぶエッジ (edge) の密度が低くなっている。

#### 【0120】

低密度化処理部110は、この行列 $H_{sp4}$ をパリティ検査行列とし、LDPC復号部121に供給する。LDPC復号部121は、図17に示される低密度のパリティ検査行列 $H_{sp4}$ を用いて、受信語に対して、サンプロダクトアルゴリズムを適用した復号を行う。

#### 【0121】

図19は、このようなパリティ検査行列を有するBCH符号をビタビ (Viterbi) 復号により最尤復号した場合と、図17に示されるような低密度パリティ検査行

列  $H_{sp4}$  を用いてサムプロダクトアルゴリズムによる復号を行った場合の復号性能の比較を示すグラフである。

#### 【0122】

図19において、曲線131は、サムプロダクトアルゴリズム (SPA) による復号結果の、ビットエラーレート (FER) を示しており ((2) bch 15 7(wgt4) SPA BER)、曲線132は、ビタビ復号による復号結果のビットエラーレート (BER) を示している ((1) bch 15 7 ML BER)。また、点133によりプロットされたデータは、サムプロダクトアルゴリズムによる復号結果のフレームエラーレート (FER) を示しており ((2) bch 15 7(wgt4) SPA FER)、点134によりプロットされたデータは、ビタビ復号による復号結果のフレームエラーレート (FER) を示している ((1) bch 15 7 ML FER)。

#### 【0123】

最尤復号 (図19の曲線132) は、サムプロダクトアルゴリズムの様な確率的復号を用いた場合の性能限界であるが、図19に示されるように本発明を用いた曲線131は、その性能限界に迫る性能をあげている。

#### 【0124】

以上のように、復号装置100は、BCH符号に対して、サムプロダクトアルゴリズムを用いた復号処理を行う前に、パリティ検査行列の密度を線形結合により低密度化させるので、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。

#### 【0125】

なお、以上においては、BCH符号に対する復号処理について説明したが、これに限らず、例えば、リードソロモン符号等のように、一般的な線形符号であればどのような符号方法であってもよい。以下に、リードソロモン符号に対してサムプロダクトアルゴリズムを適用した復号を行う場合について説明する。

#### 【0126】

図20は、本発明を適用した復号装置の他の構成例を示すブロック図である。

#### 【0127】

図20において、復号装置150は、例えばリードソロモン符号に対応する復号装置であり、受信語のパリティ検査行列を展開する展開処理部161、展開さ

れたパリティ検査行列を十分低密度な行列に変換する低密度化処理部 170、および低密度化されたパリティ検査行列を用いて、受信語を復号するLDPC復号部 181 からなる。

#### 【0128】

展開処理部 161 は、パリティ検査行列の低密度化処理の前処理として、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列の各要素をその行列の有限体の次元に応じて、それぞれ所定の次数に展開する。すなわち、展開処理部 161 は、素数のべき乗を元とする有限体上のパリティ検査行列を、その有限体の部分体上に所定の次元で展開する。展開処理部 161 は、その展開されたパリティ検査行列および受信語を低密度化処理部 170 に供給する。

#### 【0129】

低密度化処理部 170 は、パリティ検査行列の行の線形結合を計算する線形結合計算部 171、線形結合された行を用いて十分疎なパリティ検査行列を作成するパリティ検査行列作成部 172、および作成されたパリティ検査行列のランクが元のパリティ検査行列のランクと同じであるか否かを判定する判定処理部 173 により構成される。これらの各部の構成および動作は、それぞれ、図 12 に示される復号装置 100 の低密度化処理部 110 の場合と同様であるので、それらの説明は省略する。すなわち、低密度化処理部 170 を構成する線形結合計算部 171 乃至判定処理部 173 は、図 12 に示される線形結合計算部 111 乃至判定処理部 113 にそれぞれ対応する。ただし、低密度化処理部 170 は、展開処理部 161 より供給された、展開されたパリティ検査行列に対して低密度化処理を行う。

#### 【0130】

低密度化処理部 170 は、展開処理部 161 により展開されたリードソロモン符号のパリティ検査行列の密度を低密度化させ、その低密度化されたパリティ検査行列を受信語とともにLDPC復号部 181 に供給する。

#### 【0131】

LDPC復号部 181 は、取得した低密度化されたパリティ検査行列を用いて、受信語をサンプロダクトアルゴリズムにより復号し、復号された受信語を復号装置

150の外部に出力する。

#### 【0132】

以上のように、低密度化処理部170がパリティ検査行列を低密度化させる前に、展開処理部161によりパリティ検査行列の展開を行うことにより、LDPC復号部181による、低密度化されたパリティ検査行列 $H_{sp24}$ を用いたサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理の演算コストは、以下に示される式(8)のように、受信語に含まれるパリティ検査行列 $H$ を用いてサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行った場合と比べて、約4分の1に削減される。

#### 【0133】

【数8】

$$\{H_{sp24} \text{上} SPA\} \sim \frac{1}{4} \{H \text{上} SPA\} \quad \dots (8)$$

#### 【0134】

従って、復号装置150は、容易に、性能の良い復号処理を容易に行うことができる。

#### 【0135】

次に、以上のような復号装置150による復号処理について、図21のフローチャートを参照して説明する。

#### 【0136】

最初に、復号装置150の展開処理部161は、ステップS61において、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列をその有限体の次元に合わせて展開する。そして、展開処理部161は、展開したパリティ検査行列および受信語を低密度化処理部170に供給し、処理をステップS62に進める。

#### 【0137】

低密度化処理部170は、ステップS62において、パリティ検査行列低密度化処理を実行し、展開されたパリティ検査行列の密度を疎にする。パリティ検査行列低密度化処理の詳細については、図14のフローチャートを参照して説明した場合と同様であるのでその詳細な説明は省略する。ただし、この場合のパリティ検査行列低密度化処理において、低密度化処理部170は、上述したように展

開処理部 161 により展開されたパリティ検査行列を低密度化させるように処理を行う。

### 【0138】

そして、ステップ S63 において、LDPC 復号部 181 は、ステップ S62 の処理により低密度化されたパリティ検査行列を利用し、サンプロダクトアルゴリズム (SPA) を用いた復号処理を行う。ステップ S63 の処理が終了すると、LDPC 復号部 121 は、その受信語に対する復号処理を終了する。なお、復号装置 150 は、上述した復号処理を受信語毎 (ブロック毎) に実行する。

### 【0139】

以上のように、復号処理を実行することにより、復号装置 150 は、低密度化処理を行う前に、パリティ検査行列の各要素を展開させるので、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。

### 【0140】

次に、以上の復号装置 150 を用いた具体的な展開の例について説明する。

### 【0141】

以下においては、有限体を  $GF(2^4)$  とし、線形符号 C として、符号長 15、情報長 11 の  $(15, 11)$ -リードソロモン符号を復号する場合について説明する。なお、 $GF(2^4)$  の原始根を  $\alpha$  とし、その原始根  $\alpha$  からなる原始多項式を式 (9) とし、符号の生成多項式を式 (10) とする。

### 【0142】

【数 9】

$$\alpha^4 + \alpha + 1 = 0 \quad \dots (9)$$

$$g(x) := (x+1)(x+\alpha)(x+\alpha^2)(x+\alpha^3) \quad \dots (10)$$

### 【0143】

このときの線形符号 C のパリティ検査行列は、図 22 に示されるように与えられる。図 22 に示されるパリティ検査行列 H は 4 行 15 列の行列である。ところで、有限体  $GF(2^4)$  は、 $GF(2)$  の 4 次拡大体であることから、有限体  $GF(2^4)$  上の元、行列を全て 4 次元に展開することが可能である。復号装置 150 の展開処理部 161 は、図 22 に示されるパリティ検査行列 H を展開し、図 23 に示される

ような16行60列のパリティ検査行列 $H_{exp}$ に変換する。この場合、展開処理部161は、図22に示されるパリティ検査行列 $H$ の各要素を $4 \times 4$ の要素群に展開することで、図23に示されるパリティ検査行列 $H_{exp}$ を生成する。

#### 【0144】

復号装置150の低密度化処理部170は、この展開されたパリティ検査行列 $H_{exp}$ に対して低密度化処理を行い、LDPC復号部181は、低密度化されたパリティ検査行列 $H_{exp}$ を用いて、サンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。

#### 【0145】

図24は、このようなパリティ検査行列を有するリードソロモン符号を通常復号した場合と、図23の展開されたパリティ検査行列 $H_{exp}$ を低密度化したパリティ検査行列 $H_{sp24}$ を用いてサンプロダクトアルゴリズムによる復号を行った場合の復号性能の比較を示すグラフである。

#### 【0146】

図24において、曲線191は、低密度化したパリティ検査行列 $H_{sp24}$ を用いてサンプロダクトアルゴリズム (SPA) による復号を行った場合の復号結果の、ビットエラーレート (FER) を示しており ((4) RS wgt24 SPA BER)、曲線192は、通常復号による復号結果のビットエラーレート (BER) を示している ((3) RS ORD BER)。また、点193によりプロットされたデータは、低密度化したパリティ検査行列 $H_{sp24}$ を用いてサンプロダクトアルゴリズムによる復号を行った場合の復号結果のフレームエラーレート (FER) を示しており ((4) RS wgt24 SPA FER)、点194によりプロットされたデータは、通常復号による復号結果のフレームエラーレート (FER) を示している ((3) RS ORD FER)。

#### 【0147】

図24に示されるように、本発明を用いた復号の復号結果である曲線191 (点193) は、通常復号の場合の復号結果である曲線192 (点194) と比較して、より良い性能が得られている。

#### 【0148】

以上のように、復号装置150は、リードソロモン符号に対して、サンプロダ

クトアルゴリズムを用いた復号処理を行う前に、パリティ検査行列の密度を線形結合により低密度化させるので、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。また、復号装置150は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、演算コストを低く抑えることができる。

#### 【0149】

図25は、本発明を適用した、リードソロモン符号を用いた誤り訂正システムの構成例を示すブロック図である。図25に示される誤り訂正システムは、例えば、デジタルテレビ等のデジタル通信システムに用いられるシステムである。

#### 【0150】

図25の誤り訂正システムにおいては、送信側である符号化装置210より送信されたデジタル情報が、例えばインターネットに代表される通信路221を介して、受信側である復号装置230に供給される。

#### 【0151】

符号化装置210は、外部より供給された送信用のデジタル情報を、リードソロモン符号を用いて符号化するリードソロモン符号化部211、符号化されたデジタル情報の並べ替えを行うインタリーバ212、畳み込み符号化を行う畳み込み符号化部213、並びに、通信路221を介して、復号装置230と通信を行う通信処理部214からなる。

#### 【0152】

リードソロモン符号化部211は、符号化装置211の外部より供給されたデジタル情報に対して、リードソロモン符号を用いた符号化処理を行い、符号化されたデジタル情報をインタリーバ212に供給する。インタリーバ212は、その符号化されたデジタル情報を、主に通信路221において発生するバースト的誤りを拡散させるために、情報の並べ替え（インタリービング）を行う。リードソロモン符号は複数ビットを1シンボルとする誤り訂正を行うので、インタリーバ212は、シンボル単位でバースト的誤りを拡散するシンボルインタリービングを行う。情報の並べ替えを終了したインタリーバ212は、その並び替

えられたデジタル情報を畳み込み符号化部 213 に供給する。

【0153】

畳み込み符号化部 213 は、並び替えられたデジタル情報に対して、過去に符号化した情報を参照し、複数の情報ブロックに基づいて、逐次的に符号系列が定まる畳み込み符号を行う。例えば、拘束長  $K$  の畳み込み符号化部 213 は、インタリーバ 212 よりデジタル情報が  $k$  ビットの情報ブロック毎に供給されると、今回供給された情報ブロックだけでなく、過去に供給された情報ブロックも含めた  $K$  個の情報ブロックに基づいて、 $n$  ビットの符号ブロックに符号化する。畳み込み符号化が完了すると、畳み込み符号化部 213 は、畳み込み符号化されたデジタル情報を通信処理部 214 に供給する。

【0154】

通信処理部 214 は、通信制御処理を行い、所定のプロトコルに基づいて、供給されたデジタル情報を送信語として、通信路 221 を介して復号装置 230 に送信する。

【0155】

符号化装置 210 より出力されたデジタル情報は、通信路 221 を介して復号装置 230 に供給される。

【0156】

復号装置 230 は、通信路 221 を介して供給されたデジタル情報を、受信語として受信する通信処理部 231、通信処理部 231 が取得した受信語に対して、畳み込み復号処理を行う畳み込み復号部 232、畳み込み復号された受信語を元の順序に並び替えるデインタリーバ 233、並びに、元の順序に戻されたデジタル情報に、サムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、リードソロモン符号化される前のデジタル情報を復元するリードソロモン SPA 復号部 234 からなる。

【0157】

通信処理部 231 は、通信路 221 を介して符号化装置 210 の通信処理部 214 と通信を行い、所定のプロトコルに基づいて、通信処理部 214 より供給されたデジタル情報を受信語として取得する。通信処理部 231 は、取得した受



信語を畳み込み復号部 2 3 2 に供給する。

#### 【0 1 5 8】

畳み込み復号部 2 3 2 は、符号化装置 2 1 0 の畳み込み符号化部 2 1 3 による符号化方法に対応した方法で、送信処理部 2 3 1 より供給された受信語を復号する。すなわち、畳み込み復号部 2 3 2 は、受信語に対して、例えば、事後確率最大化復号 (MAP 復号 (Maximum a posteriori probability decoding)) を実現する BCJR (Bahl, Cocke, Jelinek, and Raviv) アルゴリズムや SOVA (soft output Viterbi algorithm) 等を用いて、軟判定復号を行う。そして、畳み込み復号部 2 3 2 は、この軟判定復号された受信語をデインタリーバ 2 3 3 に供給する。

#### 【0 1 5 9】

デインタリーバ 2 3 3 は、供給された受信語に対して、符号化装置 2 1 0 のインタリーバ 2 1 2 において行われたインタリービングに対応した方法で情報の並び替えを行い、並び替えられた情報を元の順序に戻す処理 (デインタリービング) を行い、元の順序に並び替えられた受信語を、リードソロモン SPA 復号部 2 3 4 に供給する。

#### 【0 1 6 0】

リードソロモン SPA 復号部 2 3 4 は、図 2 0 に示される復号装置 1 5 0 と基本的に同様の構成であり、基本的に同様の動作を行い、復号装置 1 5 0 の場合と同様に、図 2 0 のブロック図、および図 2 1 に示されるフローチャートを適用することができるので、その詳細な説明を省略する。

#### 【0 1 6 1】

リードソロモン SPA 復号部 2 3 4 は、リードソロモン符号化された受信語に対して、そのパリティ検査行列を展開するとともに低密度化し、そのパリティ検査行列を用いて、サンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、符号化される前の元のデジタル情報を復元する。リードソロモン SPA 復号部 2 3 4 は、復号したデジタル情報を復号装置 2 3 0 の外部に出力する。

#### 【0 1 6 2】

以上のようにして、図 2 5 の誤り訂正システムは、容易に、性能の良い復号処理を行うことができ、より正確な通信を行うことができる。また、復号装置 2 3

0 は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを低く抑えることができる。

#### 【0163】

なお、以上においては、誤り訂正システムは、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH符号を復号するようにしてもよい。

#### 【0164】

図26は、本発明を適用した、リードソロモン符号を用いた誤り訂正システムの他の構成例を示すブロック図である。図26に示される誤り訂正システムは、例えば、デジタルテレビ等のデジタル通信システムに用いられるシステムである。図25に示される場合と同様の部分については同一の符号を付しており、その説明を省略する。

#### 【0165】

図26の誤り訂正システムにおいては、送信側である符号化装置210において符号化されたデジタル情報が、例えばインターネットに代表される通信路221を介して、受信側である復号装置240に供給される。

#### 【0166】

復号装置240は、通信路221を介して供給されたデジタル情報を、受信語として受信する通信処理部241、通信処理部241が取得した受信語に対して、畳み込み復号処理を行う畳み込み復号部242、畳み込み復号された受信語を元の順序に並び替えるデインタリーバ243、元の順序に戻されたデジタル情報に、サムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、リードソロモン符号化される前のデジタル情報を復元するリードソロモンSPA復号部244、並びに、符号化装置210のインタリーバ212と同様に、デジタル情報の並び替えを行うインタリーバ245からなる。

#### 【0167】

通信処理部241は、図25の通信処理部231の場合と同様に、通信路221を介して符号化装置210の通信処理部214と通信を行い、所定のプロトコルに基づいて、通信処理部214より供給されたデジタル情報を受信語として

取得する。通信処理部 241 は、取得した受信語を畳み込み復号部 242 に供給する。

#### 【0168】

畳み込み復号部 242 は、図 25 の畳み込み復号部 232 の場合と同様に、符号化装置 210 の畳み込み符号化部 213 による符号化方法に対応した方法で、送信処理部 241 より供給された受信語を復号する。すなわち、畳み込み復号部 242 は、受信語に対して、例えば、BCJR アルゴリズムや SOVA 等を用いて、軟判定復号を行う。そして、畳み込み復号部 242 は、この軟判定復号された受信語をデインタリーバ 243 に供給する。また、畳み込み復号部 242 には、インタリーバ 245 より、サムプロダクトアルゴリズムによる復号が行われた受信語が再度並び替えられて供給される。畳み込み復号部 242 は、この受信語に対しても、通信処理部 241 より供給された受信語の場合と同様に、例えば、BCJR アルゴリズムや SOVA 等を用いて、軟判定復号を行い、デインタリーバ 243 に供給する。

#### 【0169】

デインタリーバ 243 は、図 25 のデインタリーバ 233 の場合と同様に、畳み込み復号部 242 より供給された受信語に対して、符号化装置 210 のインタリーバ 212 において行われたインタリービングに対応した方法で情報の並び替えを行い、並び替えられた情報を元の順序に戻す処理（デインタリービング）を行い、元の順序に並び替えられた受信語を、リードソロモン SPA 復号部 244 に供給する。なお、上述したように、畳み込み復号部 242 より供給される受信語には、通信処理部 241 から畳み込み復号部 242 を介して供給される受信語の他に、インタリーバ 245 から畳み込み復号部 242 を介して供給される受信語も含まれる。

#### 【0170】

リードソロモン SPA 復号部 244 は、図 25 のリードソロモン SPA 復号部 244 の場合と同様に、図 20 に示される復号装置 150 と基本的に同様の構成であり、基本的に同様の動作を行い、復号装置 150 の場合と同様に、図 20 のブロック図、および図 21 に示されるフローチャートを適用することができる。

## 【0171】

リードソロモンSPA復号部244は、デインタリーバ243より取得した受信語に対して、その受信語に含まれるパリティ検査行列を展開するとともに低密度化し、そのパリティ検査行列を用いてサムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、符号化される前の元のデジタル情報を復元する。リードソロモンSPA復号部244は、復号したデジタル情報を復号装置240の外部に出力する。また、リードソロモンSPA復号部244は、その復号したデジタル情報をインタリーバ245に供給する。

## 【0172】

インタリーバ245は、符号化装置210のインタリーバ212と同様に、取得したデジタル情報を所定の順番に並び替える。このインタリーバ245による並び替えのパターンは、インタリーバ212と同様である。このようにして並び替えられたデジタル情報は、畳み込み復号部242に供給される。

## 【0173】

以上のように、復号装置240は、通信処理部241において取得した受信語に対して、デインタリーバ243とインタリーバ245を介しながら、畳み込み復号部242による軟判定復号と、リードソロモンSPA復号部244によるサムプロダクトアルゴリズムを用いた復号とを繰り返し行い、復号処理における復号誤り確率を小さくしていく。なお、この復号の繰り返し回数は、予め定められていてもよいし、例えば、誤り訂正する箇所の数等のような所定の条件に基づいて、繰り返しを中止するか否かが判定されるようにしてもよい。

## 【0174】

このようにすることで、復号装置240は、容易に性能の良い復号処理を行うことができ、図26の誤り訂正システムは、より正確な通信を行うことができる。また、復号装置240は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを低く抑えることができる。

## 【0175】

なお、以上において、リードソロモンSPA復号部244は、復号したディジタ

ル情報を復号装置240の外部に出力するとともにインタリーバ245に供給するように説明したが、これに限らず、例えば、復号を繰り返している間は、インタリーバ245にのみ復号したデジタル情報を供給するようにし、復号の繰り返しが終了した場合に、デジタル情報の出力先をインタリーバ245から復号装置240の外部に切り替えて、復号したデジタル情報を出力するようにしてもよい。

#### 【0176】

なお、以上においては、誤り訂正システムは、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH符号を復号するようにしてもよい。

#### 【0177】

図27は、本発明を適用した、リードソロモン符号を用いて誤り訂正を行う誤り訂正システムを適用した記録再生装置の構成例を示すブロック図である。図27に示される記録再生装置は、例えば、DVDレコードプレーヤ等のデジタル記録媒体記録再生装置である。

#### 【0178】

図27の記録再生装置250は、外部より供給されたデジタル情報を、符号化処理部260において符号化し、記録再生処理部270において記録媒体272に記録する。また、記録再生装置250は、記録媒体272に記録されているデジタル情報を、記録再生処理部270において再生し、復号処理部280において復号処理を行って元のデジタル情報を取得し、その情報を外部に出力する。

#### 【0179】

符号化処理部260は、デジタル情報に互いに異なる次元に関するリードソロモン符号を行う第1リードソロモン符号化部261-1乃至第nリードソロモン符号化部261-nからなる。

#### 【0180】

符号化処理部260の外部より供給されたデジタル情報は、第1リードソロモン符号化部261-1において1次元目に関するリードソロモン符号化が行わ

れる。続いて、デジタル情報は、第 2 リードソロモン符号化部 2 6 1 - 2 乃至第  $n$  リードソロモン符号化部 2 6 1 -  $n$  の各部において、2 次元目乃至  $n$  次元目までの各次元目に関するリードソロモン符号が順に行われる。第  $n$  リードソロモン符号化部 2 6 1 -  $n$  による符号化が終了すると、符号化処理部 2 6 0 は、符号化されたデジタル情報を記録再生処理部 2 7 0 に供給する。

#### 【0 1 8 1】

記録再生処理部 2 7 0 は、符号化処理部 2 6 0 より供給された情報を記録媒体 2 7 2 に記録する記録部 2 7 1、例えば光ディスク等の記録媒体 2 7 2、記録媒体 2 7 2 に記録されている情報を再生する再生部 2 7 3 からなる。

#### 【0 1 8 2】

記録再生処理部 2 7 0 の記録部 2 7 1 は、符号化処理部 2 6 0 より供給されたデジタル情報を NRZI (Non Return to Zero Invert) 変換 (NRZI 符号化) するなどして記録媒体 2 7 2 に記録する。また、記録再生処理部 2 7 0 の再生部 2 7 3 は、記録媒体 2 7 2 に記録されているデジタル情報 (リードソロモン符号化されたデジタル情報) を再生し、そのデジタル情報に施された NRZI 変換を元に戻し (復号し)、そのデジタル情報を復号処理部 2 8 0 に供給する。

#### 【0 1 8 3】

復号処理部 2 8 0 は、符号化処理部 2 6 0 に対応する復号器であり、デジタル情報に互いに異なる次元に関して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う第 1 リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 - 1 乃至第  $n$  リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 -  $n$  からなる。

#### 【0 1 8 4】

第 1 リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 - 1 乃至第  $n$  リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 -  $n$  は、それぞれ、符号化処理部 2 6 0 の第 1 リードソロモン符号化部 2 6 1 - 1 乃至第  $n$  リードソロモン符号化部 2 6 1 -  $n$  に対応し、各次元に関するリードソロモン符号に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行う。第 1 リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 - 1 乃至第  $n$  リードソロモン SPA 復号部 2 8 1 -  $n$  は、それぞれ、図 2 0 に示される復号装置 1 5 0 と基本的に同様の構成であり、基本的に同様の動作を行う。従って、第 1 リードソロモン SPA 復号部 2 8 1

ー1乃至第 $n$ リードソロモンSPA復号部281- $n$ は、それぞれ、復号装置150の場合と同様に、図20のブロック図、および図21に示されるフローチャートを適用することができる。

#### 【0185】

復号処理部280は、第1リードソロモンSPA復号部281-1乃至第 $n$ リードソロモンSPA復号部281- $n$ の各部において、再生部273より供給されたデジタル情報に対して、パリティ検査行列の各要素、行列を展開し、そのパリティ検査行列を低密度化して、各次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。その際、復号処理部280は、図27に示されるように、符号化処理部260の場合と逆に、まず、第 $n$ リードソロモンSPA復号部281- $n$ において第 $n$ 次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理から行い、続いて、直列に接続される各リードソロモンSPA復号部において、それぞれ、 $n-1$ 次元目、 $n-2$ 次元目と順に次元数を下げるようにサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、最後に第1リードソロモンSPA復号部281-1において第1次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。復号処理部280は、このようにして復元した元のデジタル情報を記録再生装置250の外部に出力する。

#### 【0186】

このようにすることにより、復号処理部280は、容易に性能の良い復号処理を行うことができ、記録再生装置250は、より正確にデジタル情報の記録および再生を行うことができる。また、復号処理部280は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを低く抑えることができる。

#### 【0187】

なお、以上においては、記録再生装置250は、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH符号を復号するようにしてもよい。

#### 【0188】

以上においては、デジタル情報の記録および再生を行う記録再生装置の例に

について説明したが、この記録再生装置 250 の、デジタル情報を記録媒体に記録する記録機能と、記録媒体に記録されているデジタル情報を再生する再生機能とが別体として構成されるようにしてもよい。

#### 【0189】

図 28 は、図 27 の記録再生装置 250 と同様の記録機能を有する記録装置の構成例を示すブロック図である。なお、図 27 に示される場合と同様の部分については同一の符号を付しており、その説明を省略する。

#### 【0190】

図 28 の記録装置 300 は、第 1 リードソロモン符号化部 261-1 乃至第 n リードソロモン符号化装置 261-n からなる符号化処理部 260、並びに、記録部 271 および記録媒体 272 からなる記録処理部 310 を有する。記録装置 300 の符号化処理部 260 の外部より供給されたデジタル情報は、最初に、第 1 リードソロモン符号化部 261-1 において 1 次元目に関するリードソロモン符号化が行われる。続いて、その 1 次元目に関して符号化されたデジタル情報は、第 2 リードソロモン符号化部 261-2 乃至第 n リードソロモン符号化部 261-n の各部に順に供給され、各部において、2 次元目乃至 n 次元目までの各次元目に関するリードソロモン符号が行われる。第 n リードソロモン符号化部 261-n による符号化が終了すると、符号化処理部 260 は、符号化されたデジタル情報を記録処理部 310 に供給する。

#### 【0191】

記録処理部 310 は、符号化処理部 260 より供給された情報を記録媒体 272 に記録する記録部 271、および、例えば光ディスク等の記録媒体 272 を含む。記録処理部 310 の記録部 271 は、符号化処理部 260 より供給されたデジタル情報を NRZI 変換 (NRZI 符号化) するなどして記録媒体 272 に記録する。

#### 【0192】

すなわち、記録装置 300 は、図 27 の記録再生装置 250 と同様に、符号化処理部 260 においてデジタル情報をリードソロモン符号化し、記録処理部 310 の記録部 271 の制御により、そのリードソロモン符号化されたデジタル



情報を記録媒体 272 に記録する。

#### 【0193】

このような記録装置 300 に対応する再生装置を図 29 に示す。なお、図 27 に示される場合と同様の部分については同一の符号を付しており、その説明を省略する。

#### 【0194】

図 29 の再生装置 350 は、図 28 に示される記録装置 300 に対応する再生装置であり、第 1 リードソロモン SPA 復号部 281-1 乃至第  $n$  リードソロモン符号化装置 281- $n$  からなる復号処理部 280、並びに、記録媒体 272 および再生部 273 からなる再生処理部 350 を有する。再生装置 350 の再生部 273 は、記録媒体 272 に記録されているデジタル情報（リードソロモン符号化されたデジタル情報）を再生し、そのデジタル情報に施された NRZI 変換を元に戻し（復号し）、そのデジタル情報を復号処理部 280 に供給する。

#### 【0195】

復号処理部 280 は、第 1 リードソロモン SPA 復号部 281-1 乃至第  $n$  リードソロモン SPA 復号部 281- $n$  の各部において、再生部 273 より供給されたデジタル情報に対して、パリティ検査行列の各要素、行列を展開し、そのパリティ検査行列を低密度化して、各次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。その際、復号処理部 280 は、図 29 に示されるように、符号化処理部 260 の場合と逆に、まず、第  $n$  リードソロモン SPA 復号部 281- $n$  において第  $n$  次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理から行い、続いて、直列に接続される各リードソロモン SPA 復号部において、それぞれ、 $n-1$  次元目、 $n-2$  次元目と順に次元数を下げるようにサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、最後に第 1 リードソロモン SPA 復号部 281-1 において第 1 次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。復号処理部 280 は、このようにして復元した元のデジタル情報を再生装置 350 の外部に出力する。

#### 【0196】

このようにすることにより、復号処理部 280 は、容易に性能の良い復号処理

を行うことができ、再生装置 350 は、より正確にデジタル情報の再生を行うことができる。また、復号処理部 280 は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを抑制することができる。

#### 【0197】

なお、以上においては、記録再生装置 300 は、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH 符号を復号するようにしてもよい。

#### 【0198】

図 30 は、本発明を適用した、リードソロモン符号を用いて誤り訂正を行う誤り訂正システムを適用した記録再生装置の構成例を示すブロック図である。図 30 に示される記録再生装置 400 は、例えば、DVD レコードプレーヤ等のデジタル記録媒体記録再生装置である。なお、図 27 に示される場合と同様の部分については同一の符号を付しており、その説明を省略する。

#### 【0199】

図 30 の記録再生装置 400 は、外部より供給されたデジタル情報を、符号化処理部 260 において符号化し、記録再生処理部 270 において記録媒体 272 に記録する。また、記録再生装置 400 は、記録媒体 272 に記録されているデジタル情報を、記録再生処理部 270 において再生し、復号処理部 410 において復号処理を行って元のデジタル情報を取得し、その情報を外部に出力する。

#### 【0200】

復号処理部 410 は、符号化処理部 260 に対応する復号器であり、それぞれが、図 27 に示される復号処理部 280 と同様の構成であり、同様の復号処理を行う、直列に接続された  $m$  個の復号部である第 1 復号部 420-1 乃至第  $m$  復号部 420- $m$  からなる。

#### 【0201】

第 1 復号部 420-1 は、図 27 の復号処理部 280 と同様に、符号化処理部 260 の第 1 リードソロモン符号化部 261-1 乃至第  $n$  リードソロモン符号化

部 261-n に対応し、各次元に関するリードソロモン符号に対して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号を行う、直列に接続された n 個の復号部である第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-1-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-1-n により構成される。この第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-1-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-1-n は、それぞれ、図 20 に示される復号装置 150 と基本的に同様の構成であり、基本的に同様の動作を行う。従って、これらの、第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-1-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-1-n は、それぞれ、復号装置 150 の場合と同様に、図 20 のブロック図、および図 21 に示されるフローチャートを適用することができる。

### 【0202】

第 2 復号部 420-2 乃至第 m 復号部 420-m も、それぞれ、第 1 復号部 420-1 と同様の構成であり、第 1 復号部 420-1 と同様の動作を行う。例えば、第 2 復号部 420-2 は、直列に接続された n 個の復号部である第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-2-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-2-n により構成され、第 m 復号部 420-m も直列に接続された n 個の復号部である第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-m-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-m-n により構成される。なお、これらの第 2 復号部 420-2 乃至第 m 復号部 420-m を構成する第 1 リードソロモン SPA 復号部乃至第 n リードソロモン SPA 復号部は全て、それぞれ、図 20 に示される復号装置 150 と基本的に同様の構成であり、基本的に同様の動作を行うので、それぞれ、復号装置 150 の場合と同様に、図 20 のブロック図、および図 21 に示されるフローチャートを適用することができる。

### 【0203】

復号処理部 410 は、まず、再生部 273 より供給されたデジタル情報に対して、第 1 復号部 420-1 の第 1 リードソロモン SPA 復号部 421-1-1 乃至第 n リードソロモン SPA 復号部 421-1-n の各部において、パリティ検査行列の各要素、行列を展開し、そのパリティ検査行列を低密度化して、各次元目に関するサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。

## 【0204】

その際、第1復号部420-1は、符号化処理部260の場合と逆に、まず、第nリードソロモンSPA復号部421-1-nにおいて第n次元目に関するサムプロダクトアルゴリズムによる復号処理から行い、続いて、直列に接続される各リードソロモンSPA復号部において、それぞれ、n-1次元目、n-2次元目と順に次元数を下げるようにサムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、最後に第1リードソロモンSPA復号部421-1-1において第1次元目に関するサムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。

## 【0205】

復号処理が終了すると、第1復号部420-1は、復号されたデジタル情報を第2復号部420-2に供給する。第2復号部420-2は、第1の復号部420-1の場合と同様に、第1リードソロモンSPA復号部421-2-1乃至第nリードソロモンSPA復号部421-2-nを用いて、次元数を1つずつ下げるような順番でサムプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行い、復号されたデジタル情報を次の復号部に供給する。このようにして、順に第m復号部420-mまで復号処理が続けられる。第m復号部420-mにおける復号処理が完了すると、復号処理部410は、復号されたデジタル情報を記録再生装置400の外部に出力する。

## 【0206】

このようにすることにより、復号処理部410は、容易に性能の良い復号処理を行うことができ、記録再生装置400は、より正確にデジタル情報の記録および再生を行うことができる。また、復号処理部410は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを低く抑えることができる。

## 【0207】

なお、以上においては、記録再生装置400は、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH符号を復号するようにしてもよい。

## 【0208】

なお、以上においては、デジタル情報の記録および再生を行う記録再生装置の例について説明したが、この記録再生装置 4 0 0 の、デジタル情報を記録媒体に記録する記録機能と、記録媒体に記録されているデジタル情報を再生する再生機能とが別体として構成されるようにしてもよい。その場合、図 3 0 の記録再生装置 4 0 0 と同様の記録機能を有する記録装置は、図 2 8 に示される記録装置 3 0 0 と同様の構成であり、同様の動作を行うので、図 2 8 のブロック図を適用することができ、その説明を省略する。

#### 【0 2 0 9】

このような図 3 0 の記録再生装置 4 0 0 と同様の記録機能を有する記録装置である記録装置 3 0 0 に対応する再生装置を図 3 1 に示す。なお、図 3 0 に示される場合と同様の部分については同一の符号を付しており、その説明を省略する。

#### 【0 2 1 0】

図 3 1 の再生装置 4 5 0 は、図 2 8 に示される記録装置 3 0 0 に対応する再生装置であり、第 1 復号部 4 2 0 - 1 乃至第 m 復号部 4 2 0 - m からなる復号処理部 4 1 0、並びに、記録媒体 2 7 2 および再生部 2 7 3 からなる再生処理部 4 6 0 を有する。再生装置 4 5 0 の再生部 2 7 3 は、記録媒体 2 7 2 に記録されているデジタル情報（リードソロモン符号化されたデジタル情報）を再生し、そのデジタル情報に施された NRZI 変換を元に戻し（復号し）、そのデジタル情報を復号処理部 4 1 0 に供給する。

#### 【0 2 1 1】

復号処理部 4 1 0 は、まず、再生部 2 7 3 より供給されたデジタル情報に対して、第 1 復号部 4 2 0 - 1 において、パリティ検査行列の各要素、行列を展開し、そのパリティ検査行列を低密度化して、サンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を各次元に対して行う。続いて、復号処理部 4 1 0 は、デジタル情報を、直列に接続される第 2 復号部 4 2 0 - 2 乃至 4 2 0 - m に、順に供給し、各部においてサンプロダクトアルゴリズムによる復号処理を行う。第 m 復号部 4 2 0 - m における復号処理が完了すると、復号処理部 4 1 0 は、復号されたデジタル情報を記録再生装置 4 0 0 の外部に出力する。

#### 【0 2 1 2】

このようにすることにより、復号処理部 4 1 0 は、容易に性能の良い復号処理を行うことができ、再生装置 4 5 0 は、より正確にデジタル情報の再生を行うことができる。また、復号処理部 4 1 0 は、パリティ検査行列を低密度化させる前に、パリティ検査行列の各要素、行列を展開するので、復号処理の演算コストを抑制することができる。

#### 【0 2 1 3】

なお、以上においては、BCH符号またはリードソロモン符号に対する復号に本発明を適用する場合について説明したが、これに限らず、本発明は、一般の線形符号であればどのような符号に対応する復号に本発明を適用するようにしてもよい。

#### 【0 2 1 4】

また、以上においては、再生装置 4 5 0 は、リードソロモン符号を復号するように説明したが、これに限らず、例えば、BCH符号を復号するようにしてもよい。

#### 【0 2 1 5】

上述した一連の処理は、ハードウェアにより実行させることもできるし、ソフトウェアにより実行させることもできる。ソフトウェアにより実行される場合、上述した画像処理装置は、図 3 2 に示されるようなパーソナルコンピュータにより構成される。

#### 【0 2 1 6】

図 3 2 において、パーソナルコンピュータ 5 0 0 の CPU (Central Processing Unit) 5 0 1 は、ROM (Read Only Memory) 5 0 2 に記憶されているプログラム、または記憶部 5 1 3 から RAM (Random Access Memory) 5 0 3 にロードされたプログラムに従って各種の処理を実行する。RAM 5 0 3 にはまた、CPU 5 0 1 が各種の処理を実行する上において必要なデータなども適宜記憶される。

#### 【0 2 1 7】

CPU 5 0 1、ROM 5 0 2、および RAM 5 0 3 は、バス 5 0 4 を介して相互に接続されている。このバス 5 0 4 にはまた、入出力インタフェース 5 1 0 も接続されている。

**【0 2 1 8】**

入出力インタフェース 5 1 0 には、キーボード、マウスなどよりなる入力部 5 1 1、CRT(Cathode Ray Tube)、LCD(Liquid Crystal display)などよりなるディスプレイ、並びにスピーカなどよりなる出力部 5 1 2、ハードディスクなどより構成される記憶部 5 1 3、モデムなどより構成される通信部 5 1 4 が接続されている。通信部 5 1 4 は、インターネットを含むネットワークを介しての通信処理を行う。

**【0 2 1 9】**

入出力インタフェース 5 1 0 にはまた、必要に応じてドライブ 5 1 5 が接続され、磁気ディスク、光ディスク、光磁気ディスク、或いは半導体メモリなどのリムーバブルメディア 9 2 1 が適宜装着され、それらから読み出されたコンピュータプログラムが、必要に応じて記憶部 5 1 3 にインストールされる。

**【0 2 2 0】**

一連の処理をソフトウェアにより実行させる場合には、そのソフトウェアを構成するプログラムが、ネットワークや記録媒体からインストールされる。

**【0 2 2 1】**

この記録媒体は、図 3 2 に示されるように、装置本体とは別に、ユーザにプログラムを提供するために配布される、プログラムが記録されている磁気ディスク（フロッピディスクを含む）、光ディスク（CD-ROM(Compact Disk-Read Only Memory)、DVD(Digital Versatile Disk)を含む）、光磁気ディスク（MD (Mini-Disk)を含む）、もしくは半導体メモリなどよりなるリムーバブルメディア 5 2 1 により構成されるだけでなく、装置本体に予め組み込まれた状態でユーザに提供される、プログラムが記録されている ROM 5 0 2 や、記憶部 5 1 3 に含まれるハードディスクなどで構成される。

**【0 2 2 2】**

なお、本明細書において、記録媒体に記録されるプログラムを記述するステップは、記載された順序に沿って時系列的に行われる処理はもちろん、必ずしも時系列的に処理されなくとも、並列的あるいは個別に実行される処理をも含むものである。

## 【0223】

また、本明細書において、システムとは、複数の装置により構成される装置全体を表すものである。

## 【0224】

## 【発明の効果】

以上のごとく本発明によれば、一般の線形符号の復号処理を行うことができる。特に、一般の線形符号に対する復号方法としてサムプロダクトアルゴリズムを適用した場合に、容易に、性能の良い復号処理を行うことができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

低密度パリティ検査行列の例を示す図である。

## 【図2】

図1のパリティ検査行列に対応するタナーグラフを説明する図である。

## 【図3】

LDPC符号の復号手順を説明するフローチャートである。

## 【図4】

メッセージの流れを説明する図である。

## 【図5】

LDPC符号の検査行列の例を示す図である。

## 【図6】

検査行列のタナーグラフを示す図である。

## 【図7】

バリエブルノードを示す図である。

## 【図8】

チェックノードを示す図である。

## 【図9】

リードソロモン符号の検査行列の例を示す図である。

## 【図10】

従来の誤り訂正システムの構成例を開めす図である。



## 【図 1 1】

従来の記録再生装置の構成例を示す図である。

## 【図 1 2】

本発明を適用した復号装置の構成例を示す図である。

## 【図 1 3】

図 1 2 の復号装置による復号処理を説明するフローチャートである。

## 【図 1 4】

図 1 3 のステップ S 2 1 において実行されるパリティ検査行列低密度化処理を説明するフローチャートである。

## 【図 1 5】

BCH符号のパリティ検査行列の例を示す図である。

## 【図 1 6】

図 1 5 のパリティ検査行列に対応するタナーグラフを示す図である。

## 【図 1 7】

展開されたパリティ検査行列の例を示す図である。

## 【図 1 8】

図 1 7 のパリティ検査行列に対応するタナーグラフを示す図である。

## 【図 1 9】

復号性能を比較するためのグラフである。

## 【図 2 0】

本発明を適用した復号装置の他の構成例を示す図である。

## 【図 2 1】

図 2 0 の復号装置による復号処理を説明するフローチャートである。

## 【図 2 2】

リードソロモン符号におけるパリティ検査行列の例を示す図である。

## 【図 2 3】

展開されたパリティ検査行列の例を示す図である。

## 【図 2 4】

復号性能を比較するためのグラフである。

## 【図 25】

本発明を適用した誤り訂正システムの構成例を示すブロック図である。

## 【図 26】

本発明を適用した誤り訂正システムの他の構成例を示すブロック図である。

## 【図 27】

本発明を適用した記録再生装置の構成例を示すブロック図である。

## 【図 28】

記録装置の構成例を示すブロック図である。

## 【図 29】

本発明を適用した再生装置の構成例を示すブロック図である。

## 【図 30】

本発明を適用した記録再生装置の他の構成例を示すブロック図である。

## 【図 31】

本発明を適用した再生装置の他の構成例を示すブロック図である。

## 【図 32】

本発明を適用したコンピュータの一実施の形態の構成例を示すブロック図である。

## 【符号の説明】

100 復号装置, 110 低密度化処理部, 111 線形結合計算部,  
112 パリティ検査行列作成部, 113 判定処理部, 121 LDPC復号  
部, 161 展開処理部, 210 符号化装置, 230 復号装置, 2  
31 通信処理部, 232 畳み込み復号部, 233 デインタリーバ,  
234 リードソロモンSPA復号部, 240 復号装置, 244 リードソ  
ロモンSPA復号部, 245 インタリーバ, 250 記録再生装置, 26  
0 符号化処理部, 270 記録再生処理部, 280 復号処理部, 28  
1-1 第1リードソロモンSPA復号部, 300 記録装置, 310 記録  
処理部, 350 再生装置, 360 再生処理部, 400 記録再生装置  
, 410 復号処理部, 420-1 第1復号部, 420-1-1 第1  
リードソロモンSPA復号部, 450 再生装置, 460 再生処理部

【書類名】 図面

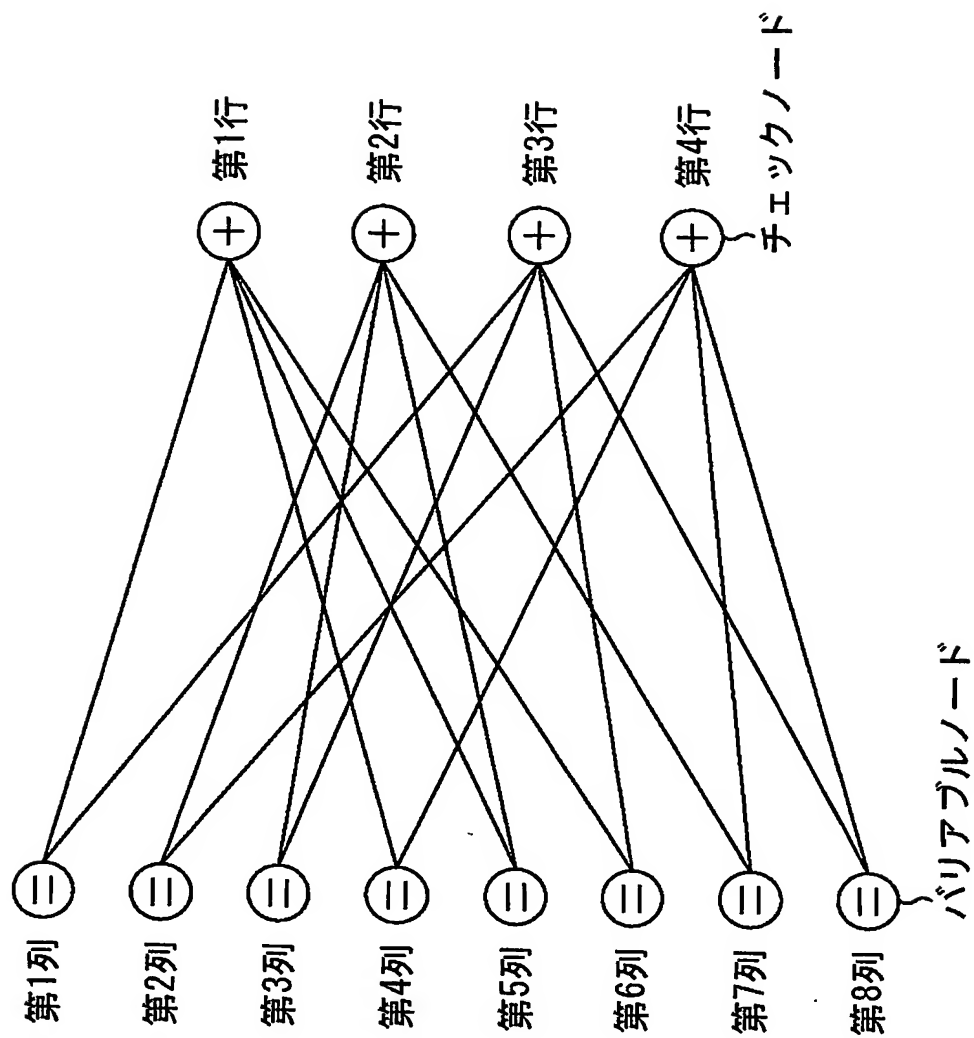
【図 1】

図1

$$H_{LDPC} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

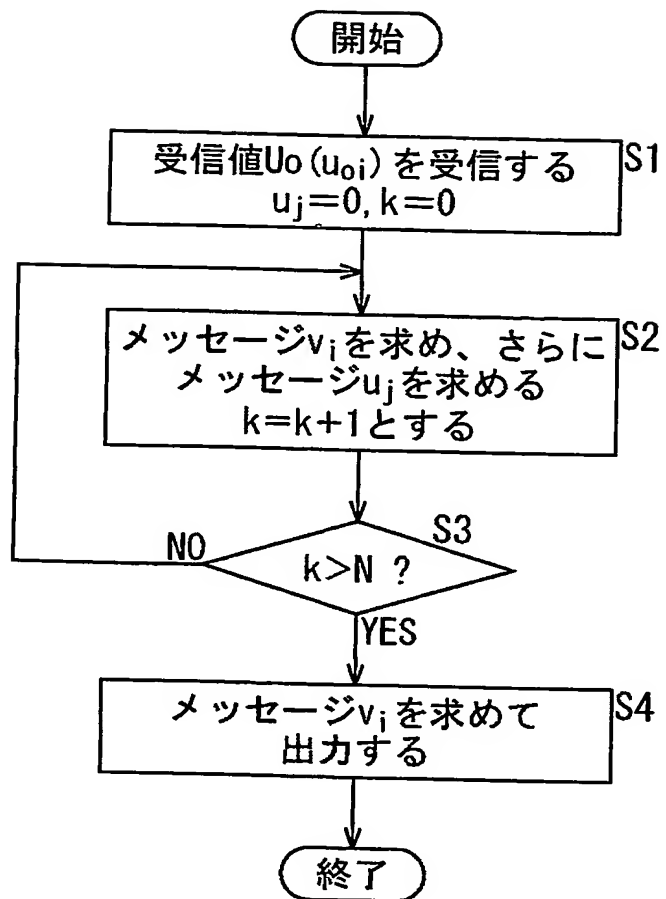
【図 2】

図2



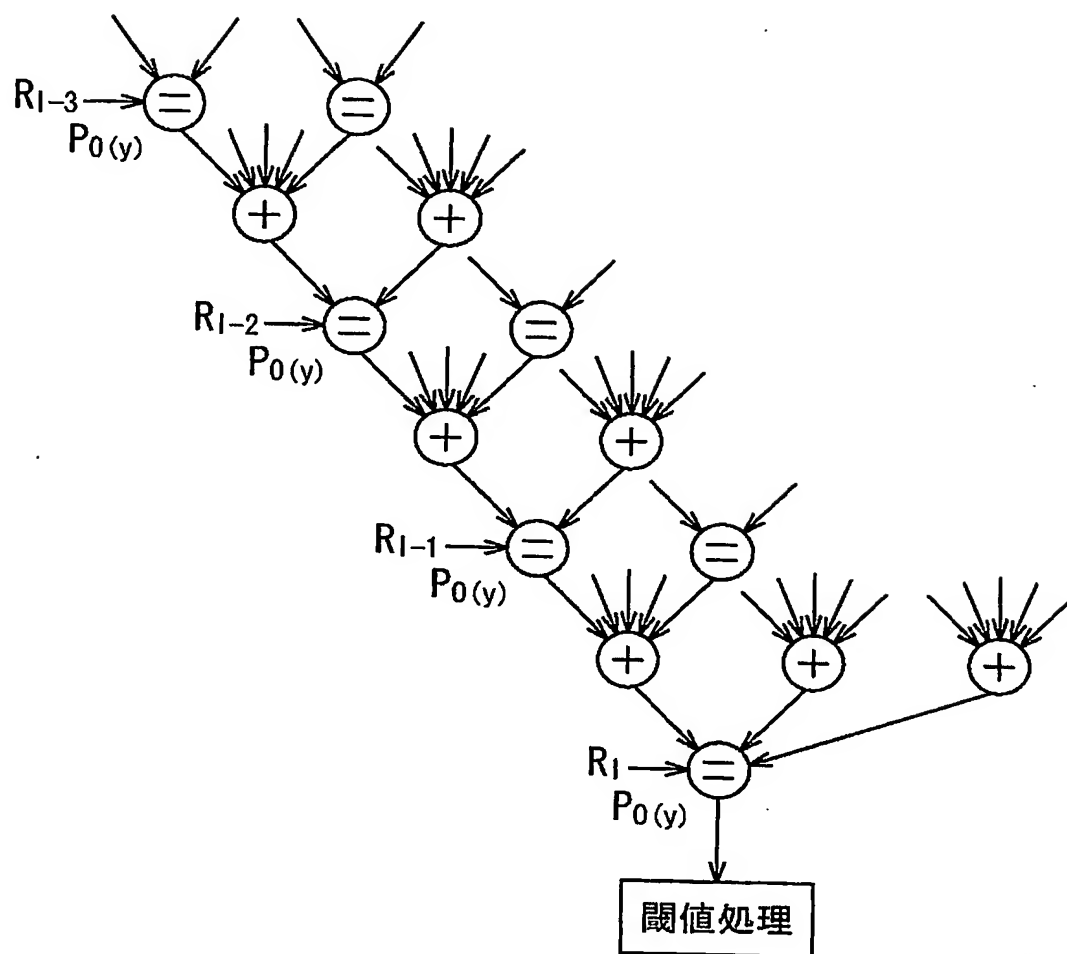
【図3】

図3



【図 4】

図4



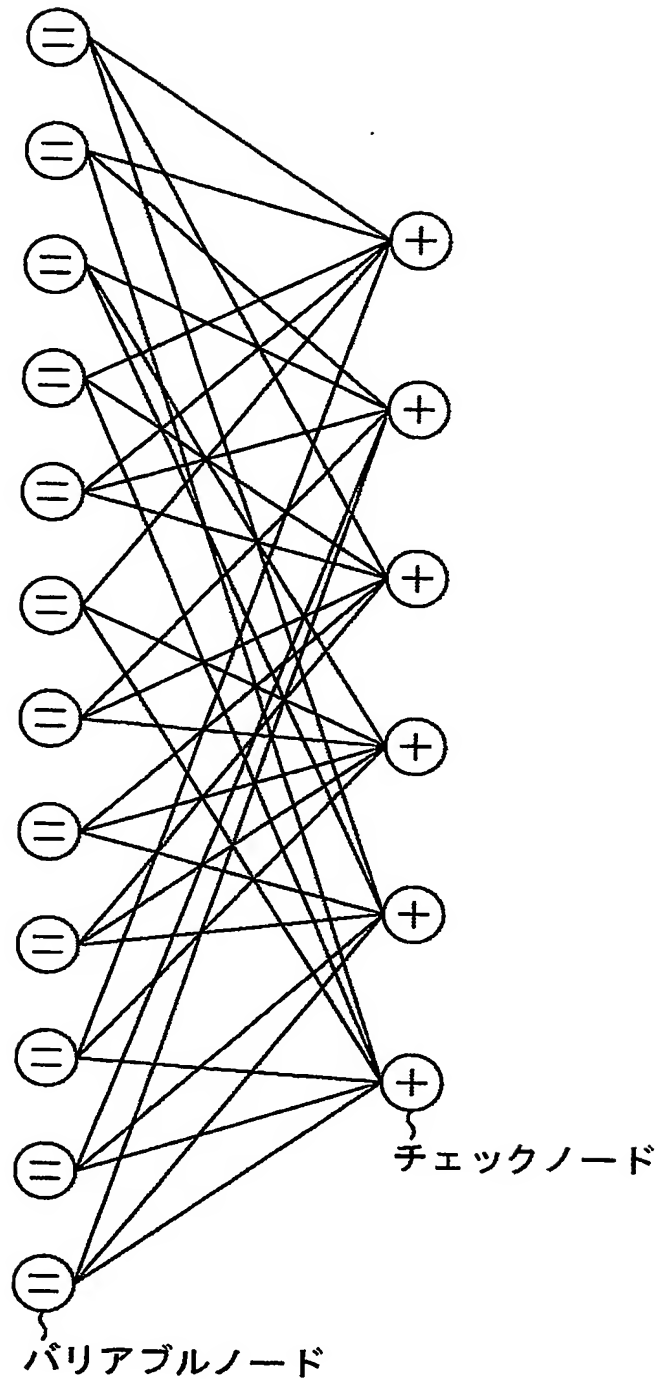
【図 5】

図5

$$H = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

【図 6】

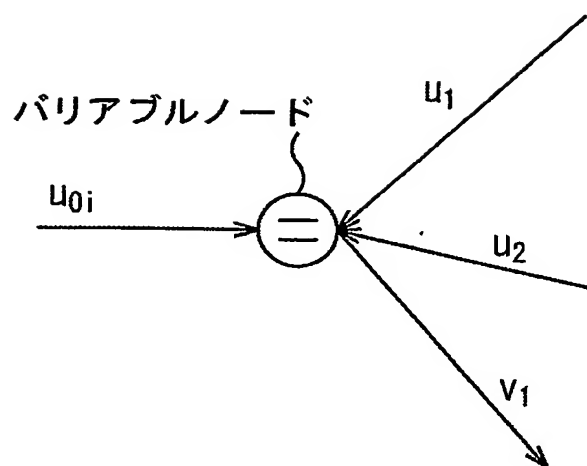
図6





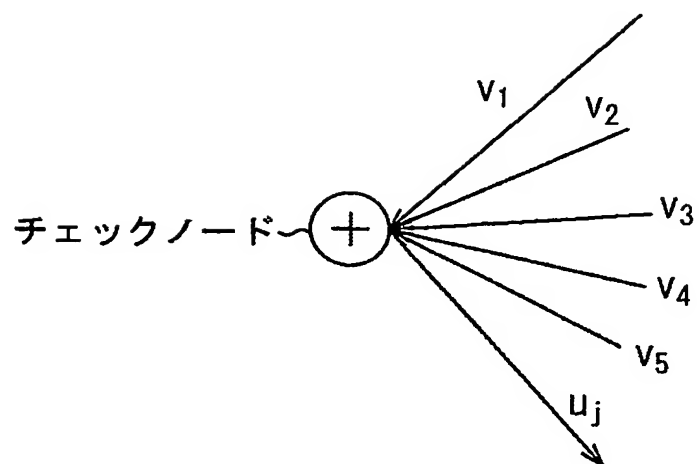
【図 7】

図 7



【図 8】

図8



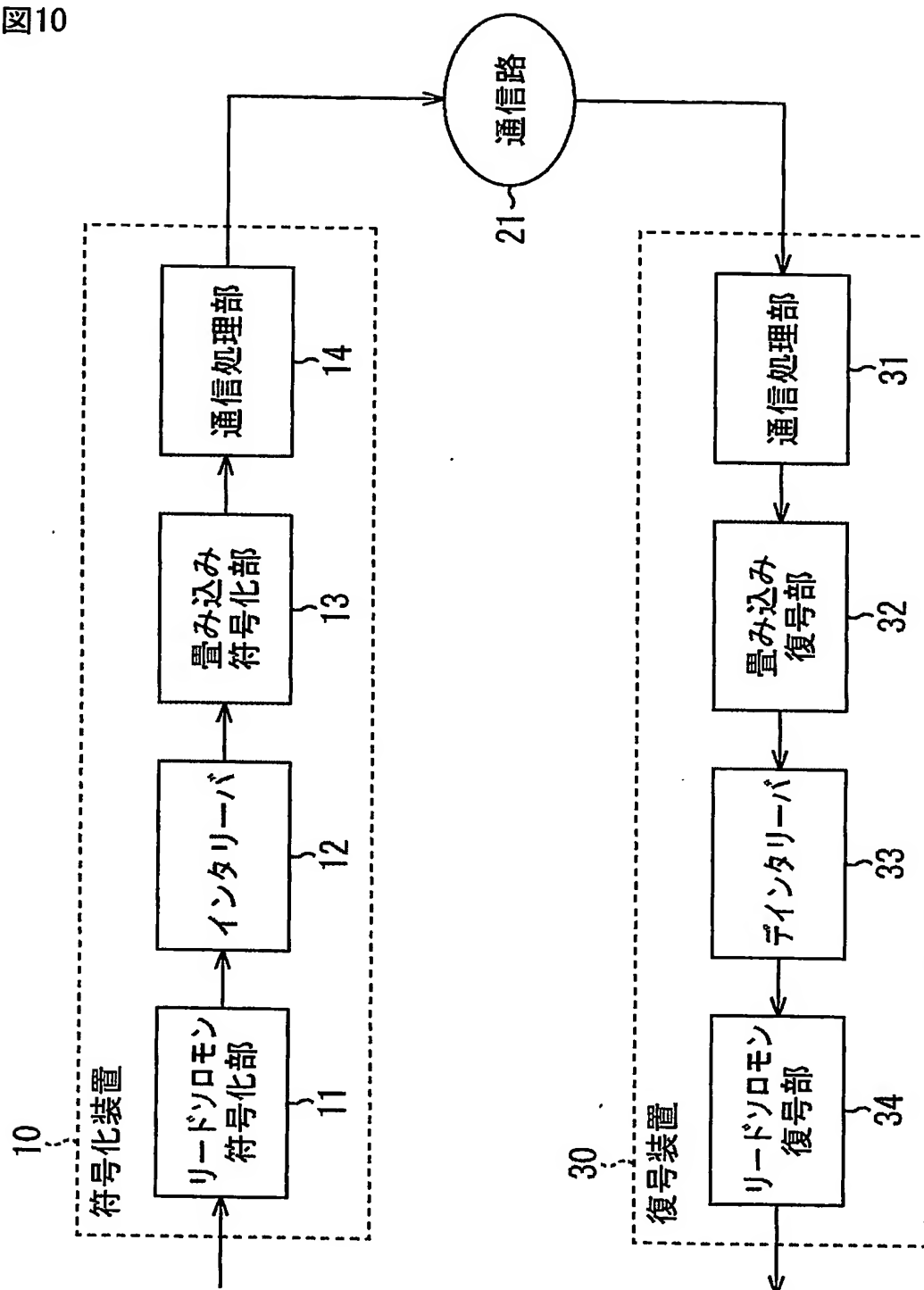
【図 9】

図9

$$H = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & \dots & 1 \\ 1 & \alpha & \alpha^2 & \dots & \alpha^{n-1} \\ 1 & \alpha^2 & \alpha^4 & \dots & \alpha^{2(n-1)} \\ \vdots & \vdots & \vdots & & \vdots \\ 1 & \alpha^{2t-1} & \alpha^{2(2t-1)} & \dots & \alpha^{(2t-1)(n-1)} \end{pmatrix}$$

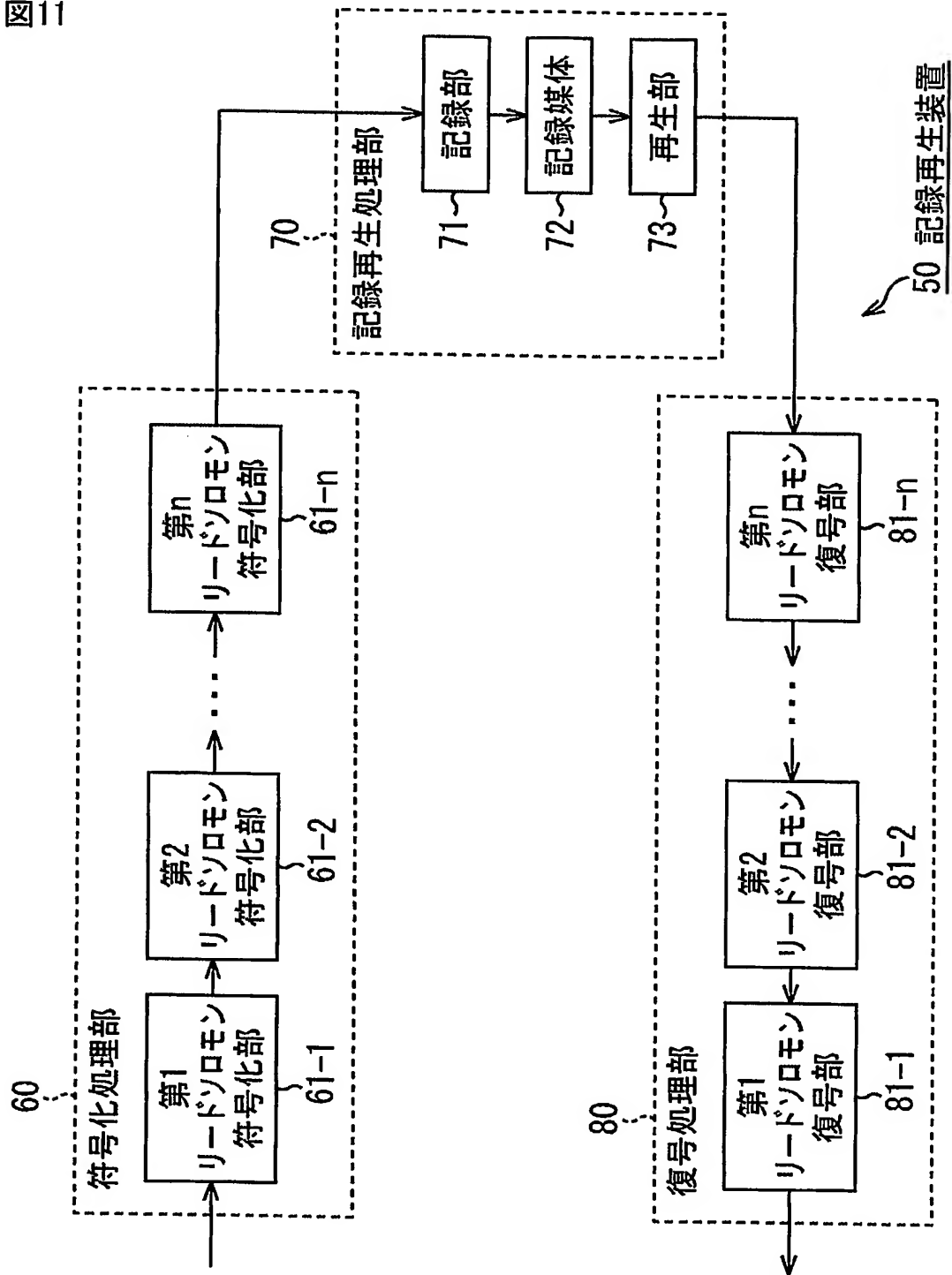
【図10】

図10



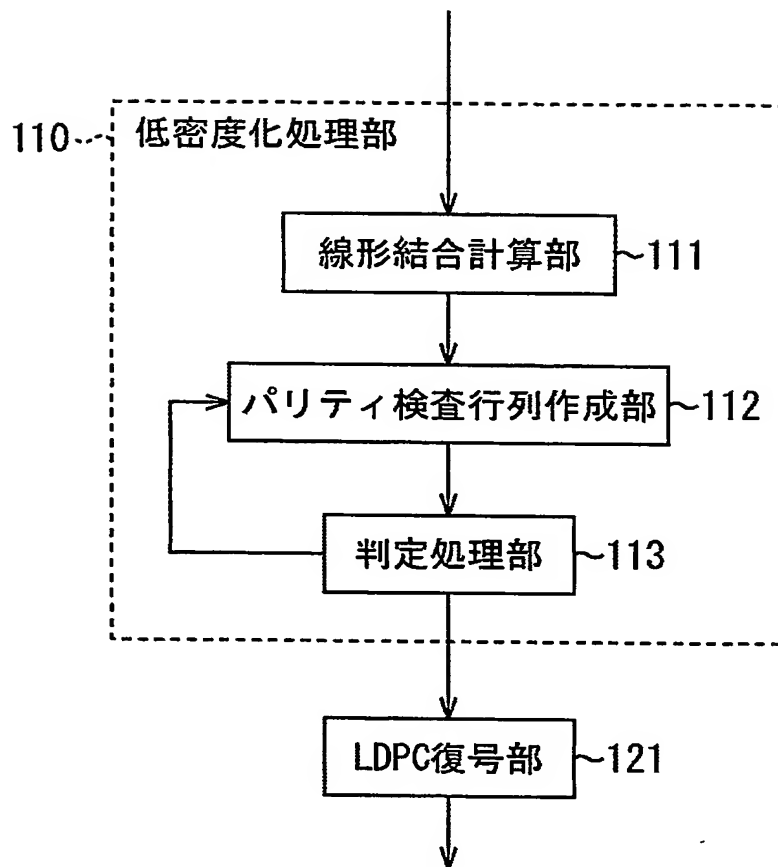
【図 11】

図 11



【図 12】

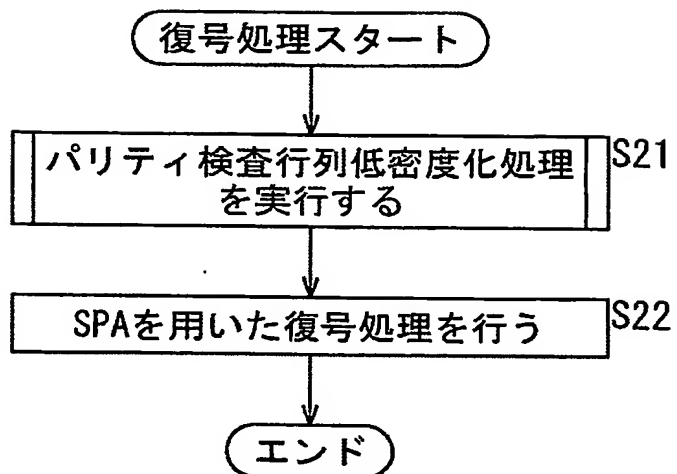
図12



100 復号装置

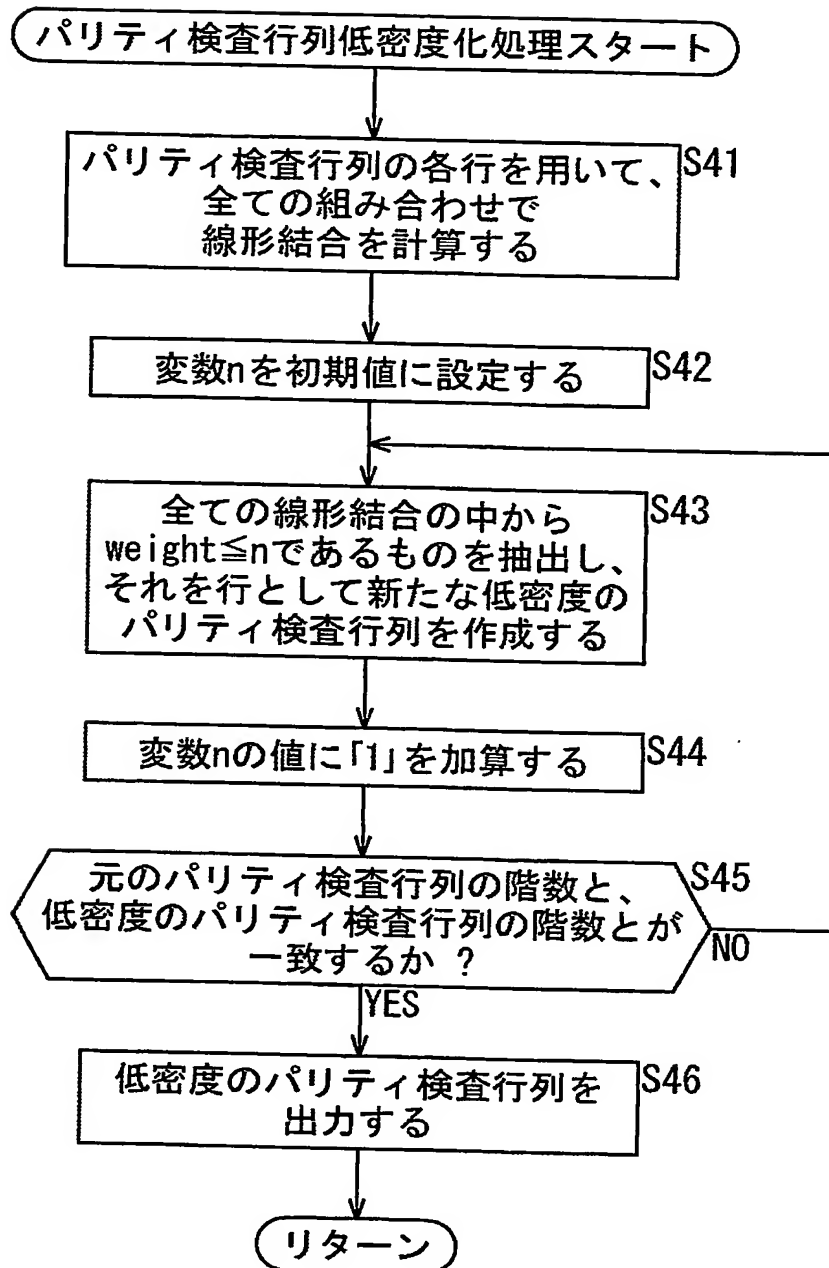
【図 13】

図13



【図14】

図14





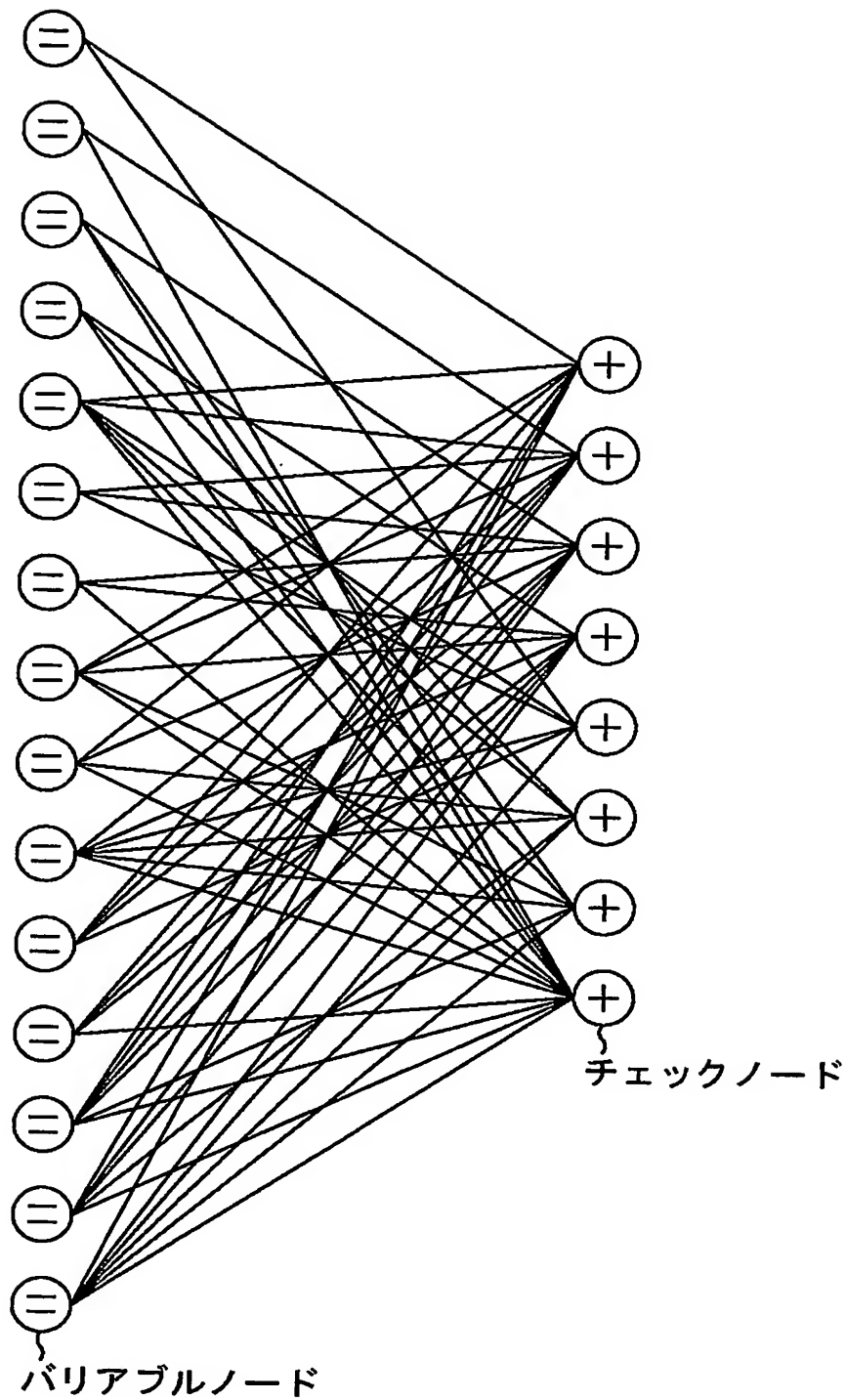
【図 1 5】

図15

$$H = \begin{pmatrix} 100010011010111 \\ 010011010111100 \\ 001001101011110 \\ 000100110101111 \\ 100011000110001 \\ 000110001100011 \\ 001010010100101 \\ 011110111101111 \end{pmatrix}$$

【図 16】

図16



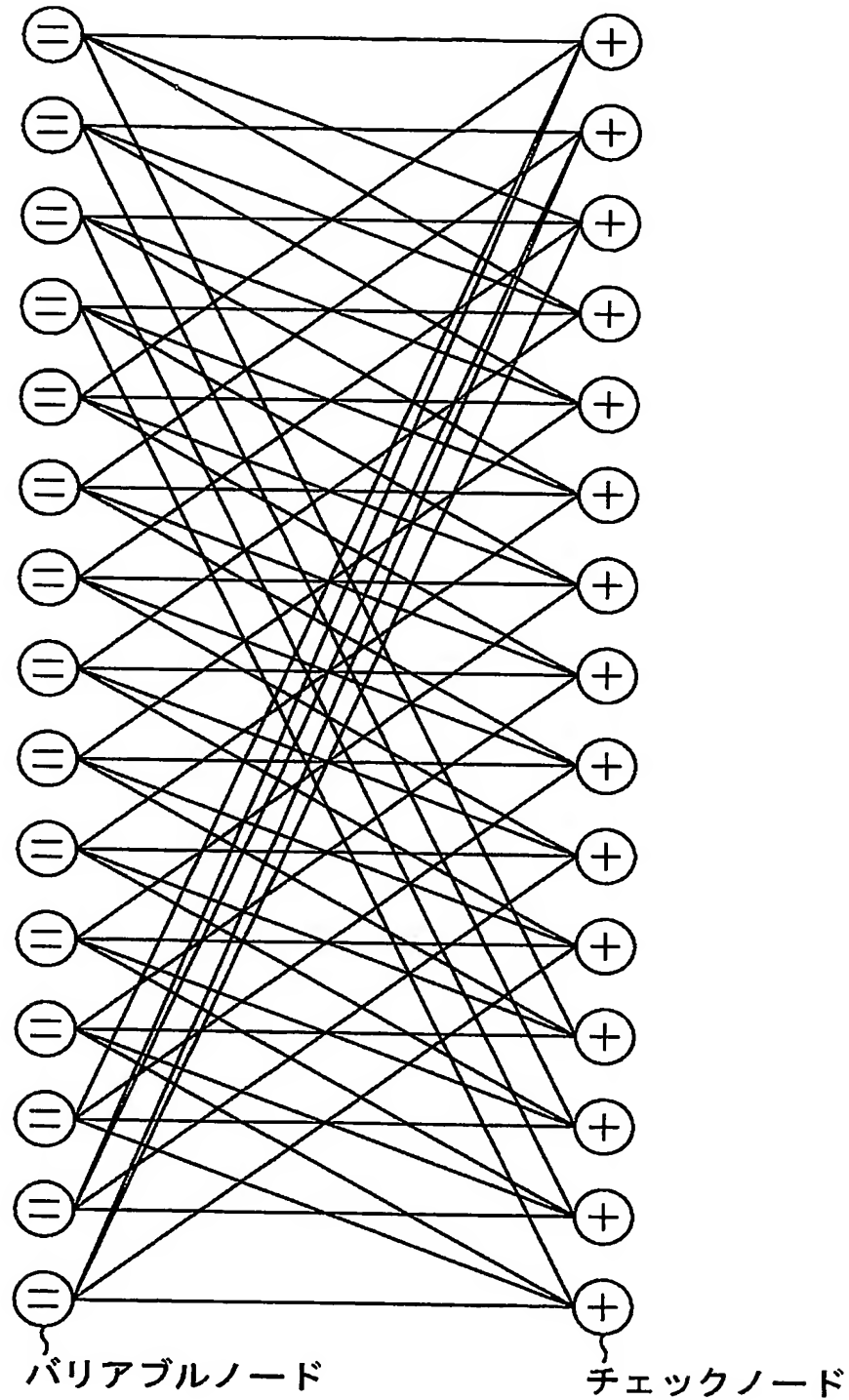
【図 1 7】

図17

$$H_{sp4} = \begin{pmatrix} 100010000000110 \\ 010001000000011 \\ 101000100000001 \\ 110100010000000 \\ 011010001000000 \\ 001101000100000 \\ 000110100010000 \\ 000011010001000 \\ 000001101000100 \\ 000000110100010 \\ 000000011010001 \\ 100000001101000 \\ 010000000110100 \\ 001000000011010 \\ 000100000001101 \end{pmatrix}$$

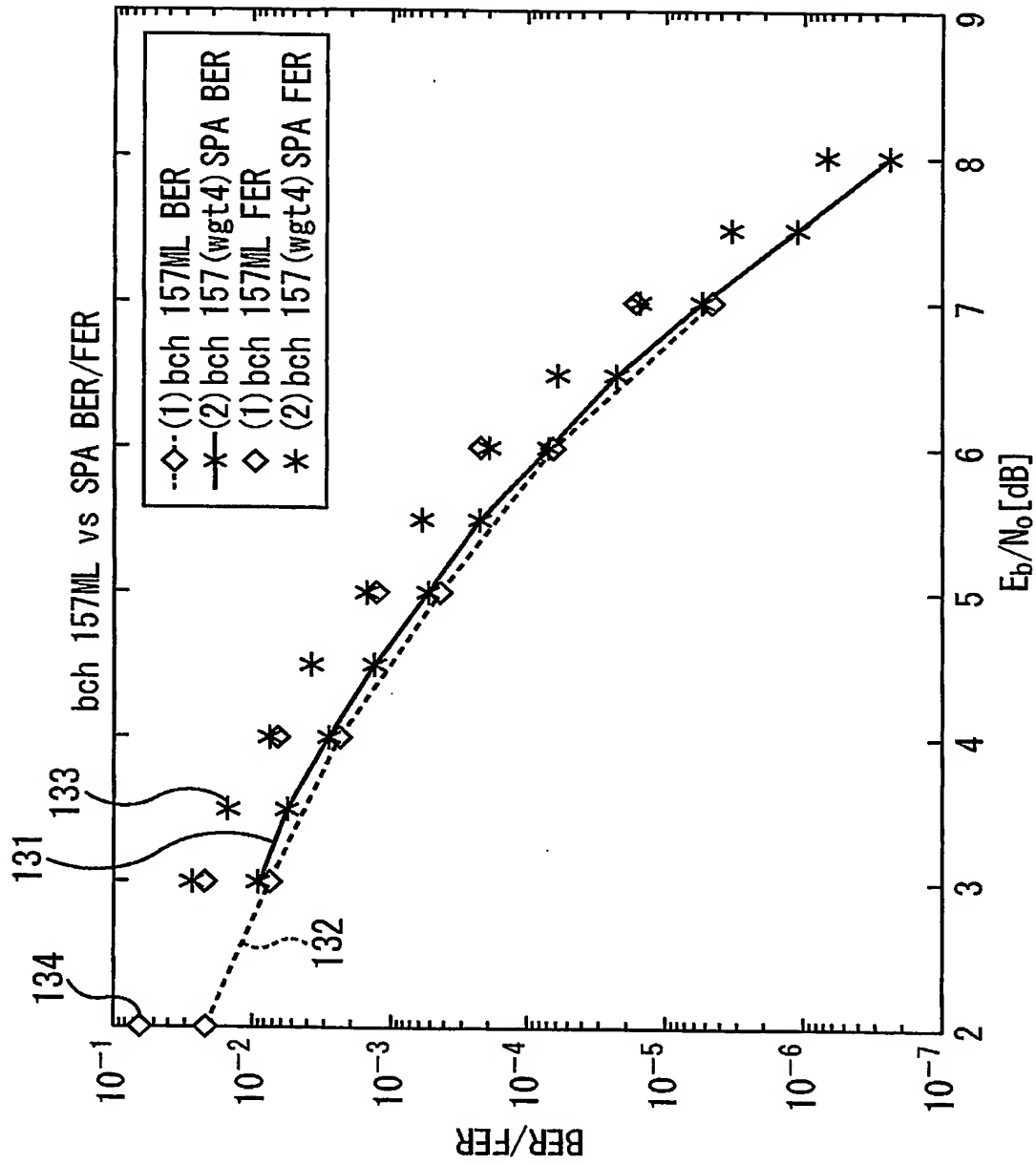
【図18】

図18



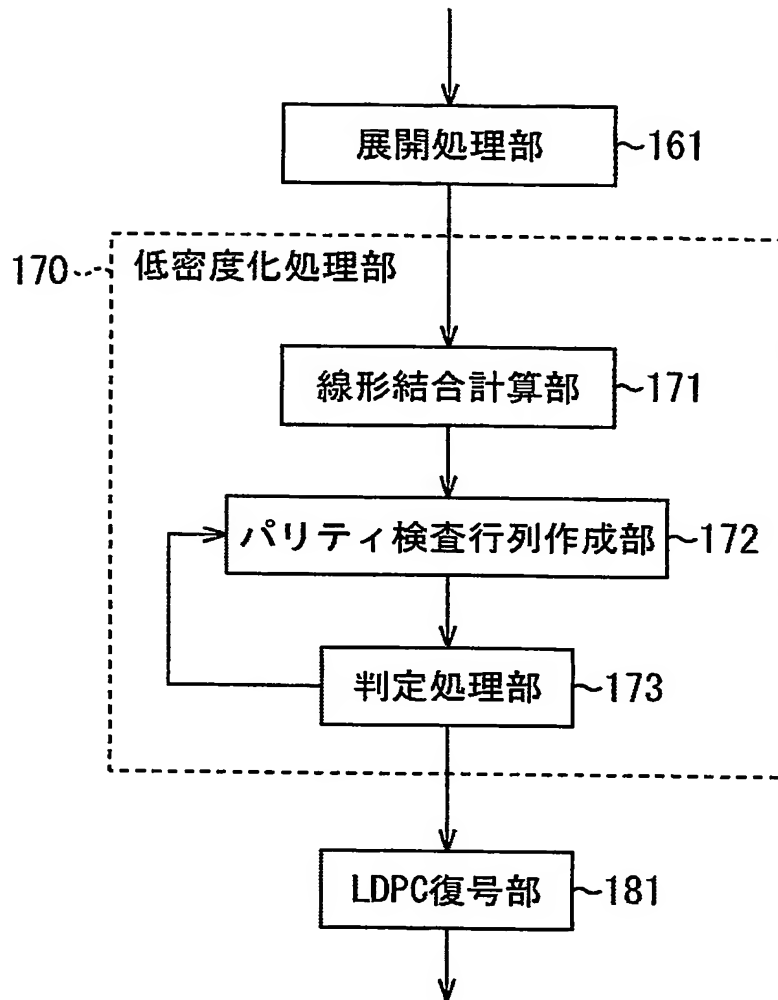
【図 19】

図19



【図 20】

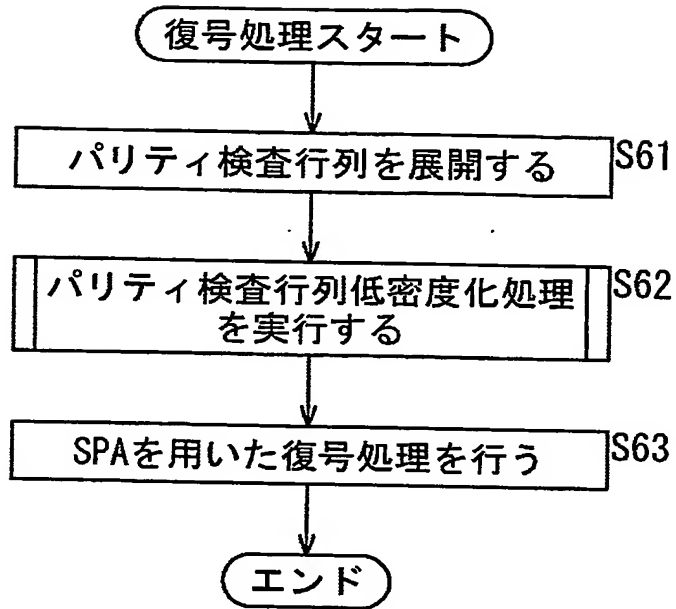
図20



150 復号装置

【図 21】

図21



【図 22】

図22

$$H = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & \alpha & \alpha^2 & \alpha^3 & \alpha^4 & \alpha^5 & \alpha^6 & \alpha^7 & \alpha^8 & \alpha^9 & \alpha^{10} & \alpha^{11} & \alpha^{12} & \alpha^{13} & \alpha^{14} & & & \\ 1 & \alpha^2 & \alpha^4 & \alpha^6 & \alpha^8 & \alpha^{10} & \alpha^{12} & \alpha^{14} & \alpha^{16} & \alpha^{18} & \alpha^{20} & \alpha^{22} & \alpha^{24} & \alpha^{26} & \alpha^{28} & & & \\ 1 & \alpha^3 & \alpha^6 & \alpha^9 & \alpha^{12} & \alpha^{15} & \alpha^{18} & \alpha^{21} & \alpha^{24} & \alpha^{27} & \alpha^{30} & \alpha^{33} & \alpha^{36} & \alpha^{39} & \alpha^{42} & & & \end{pmatrix}$$



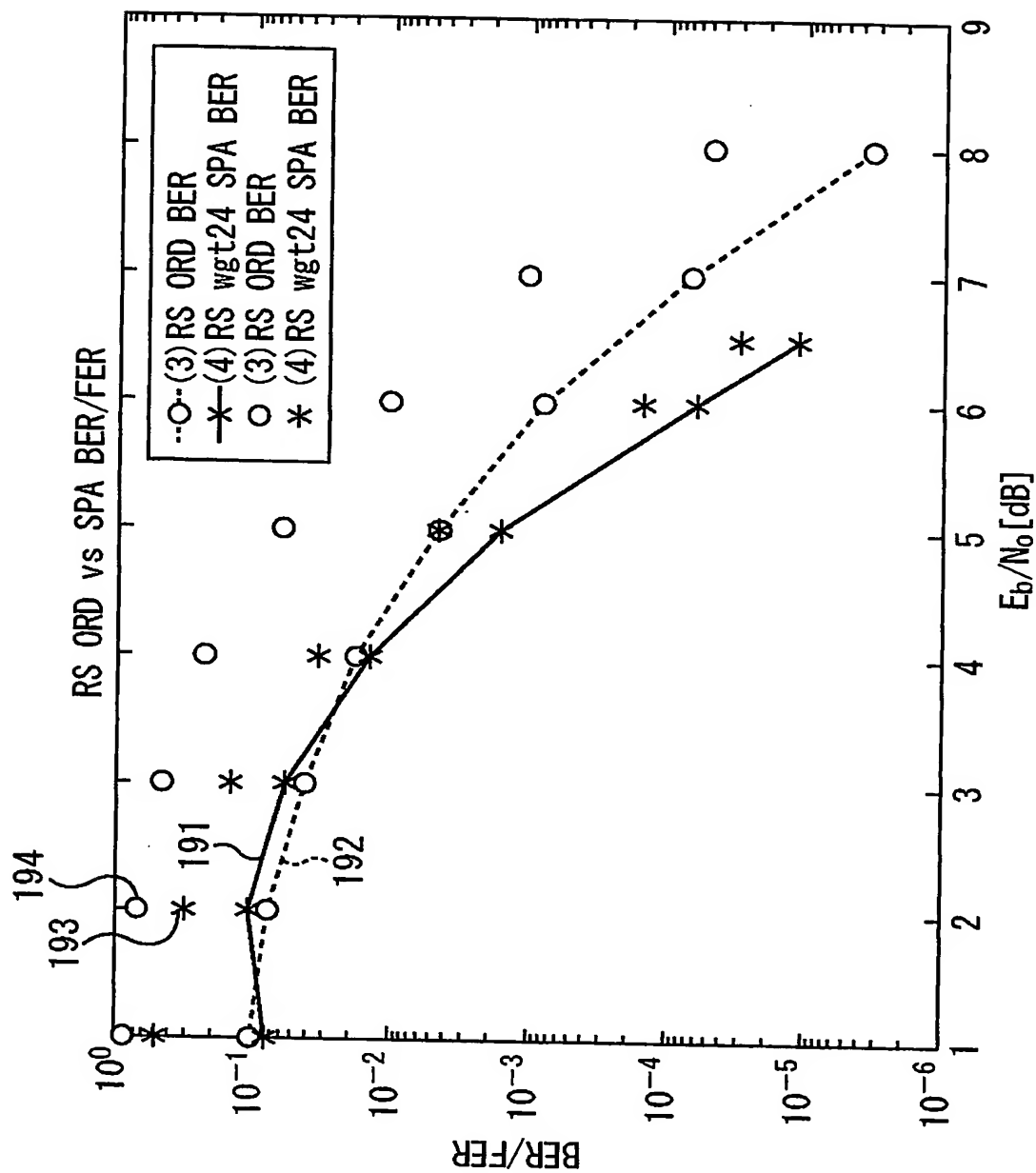
【図 23】

图23

[illegible]

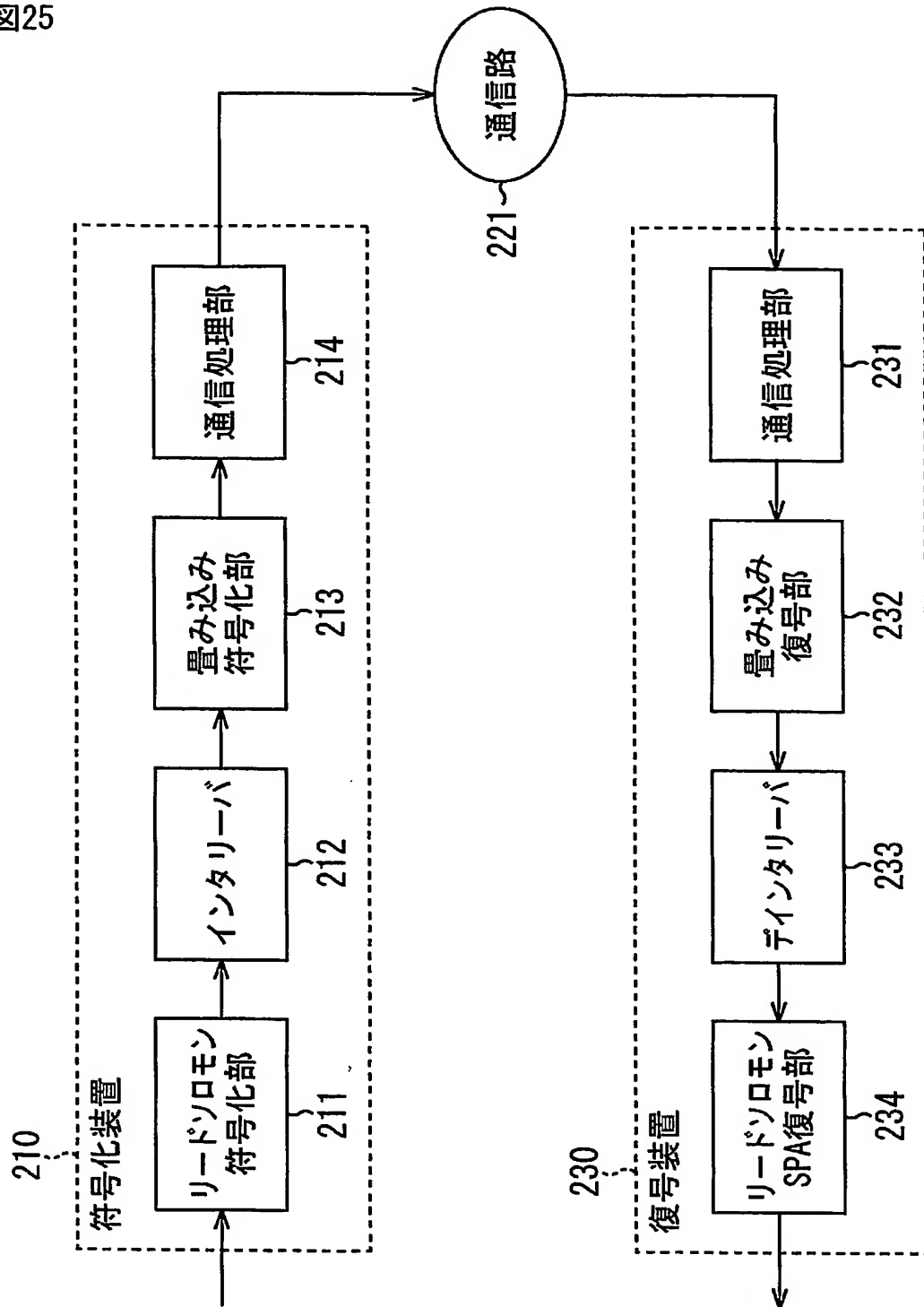
【図 24】

図24



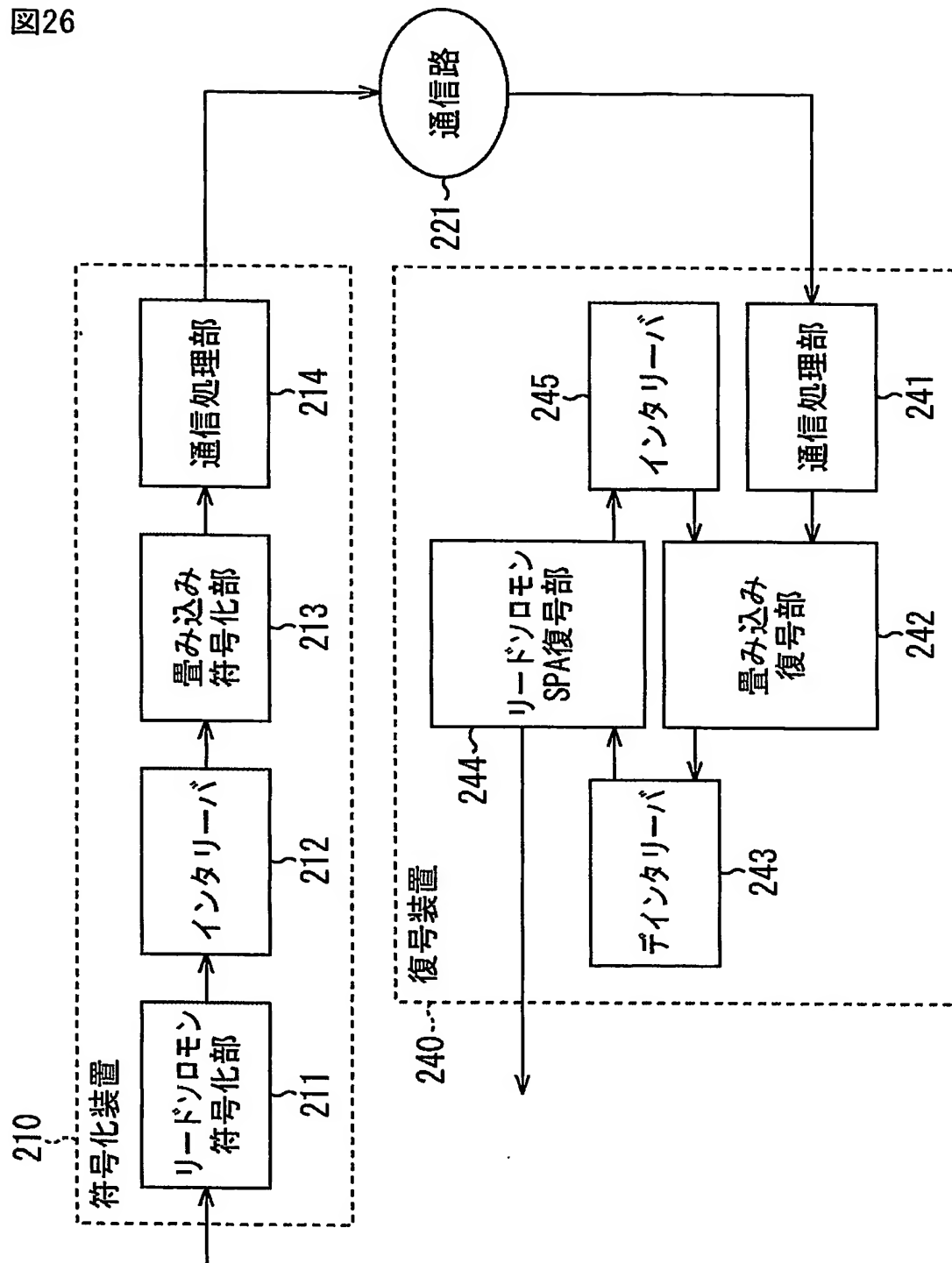
【図 25】

図25



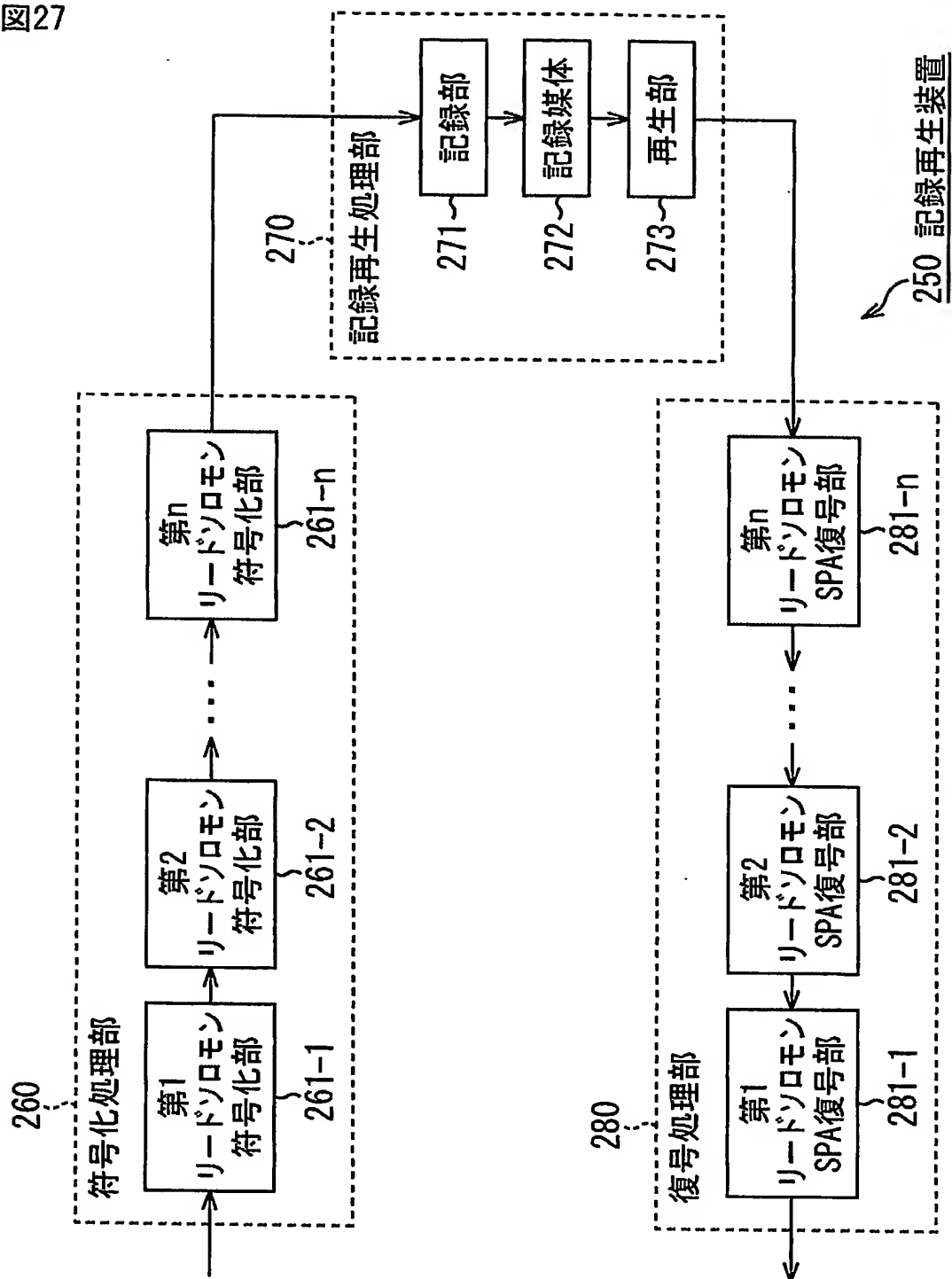
【図26】

図26



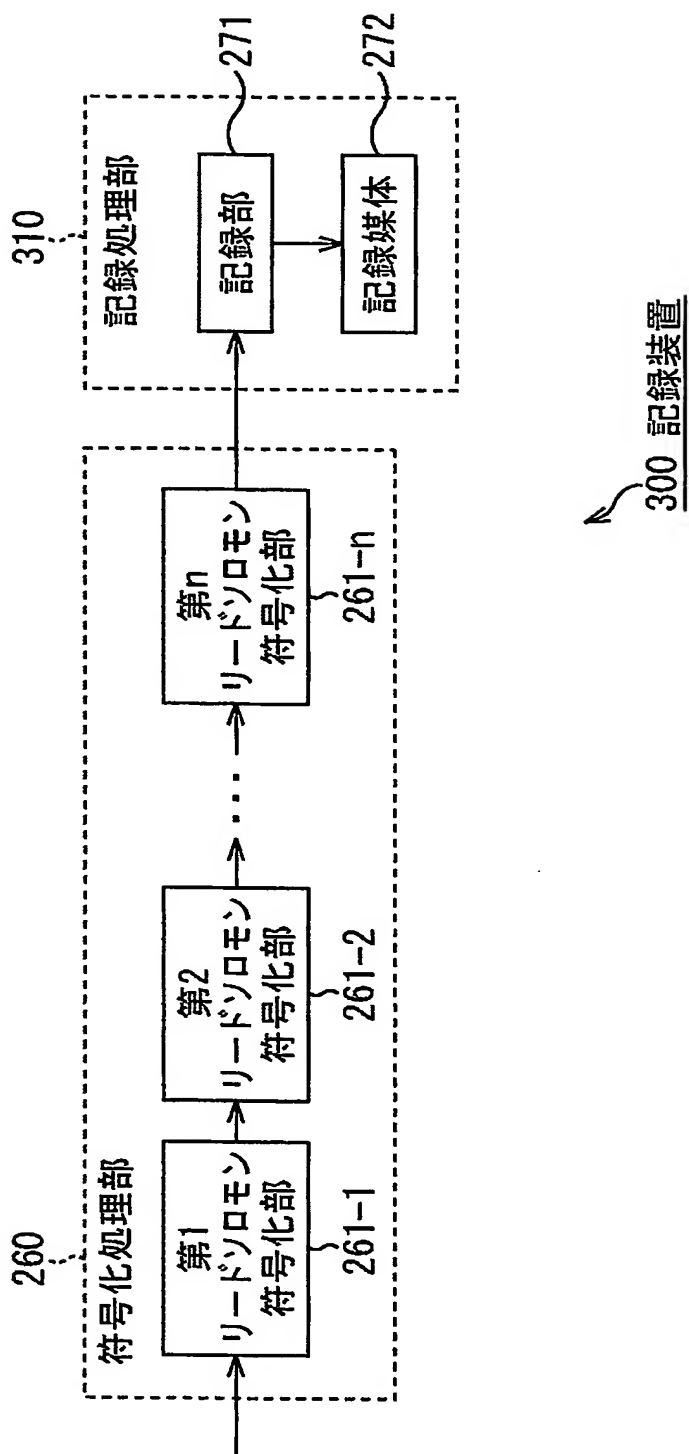
【図27】

図27



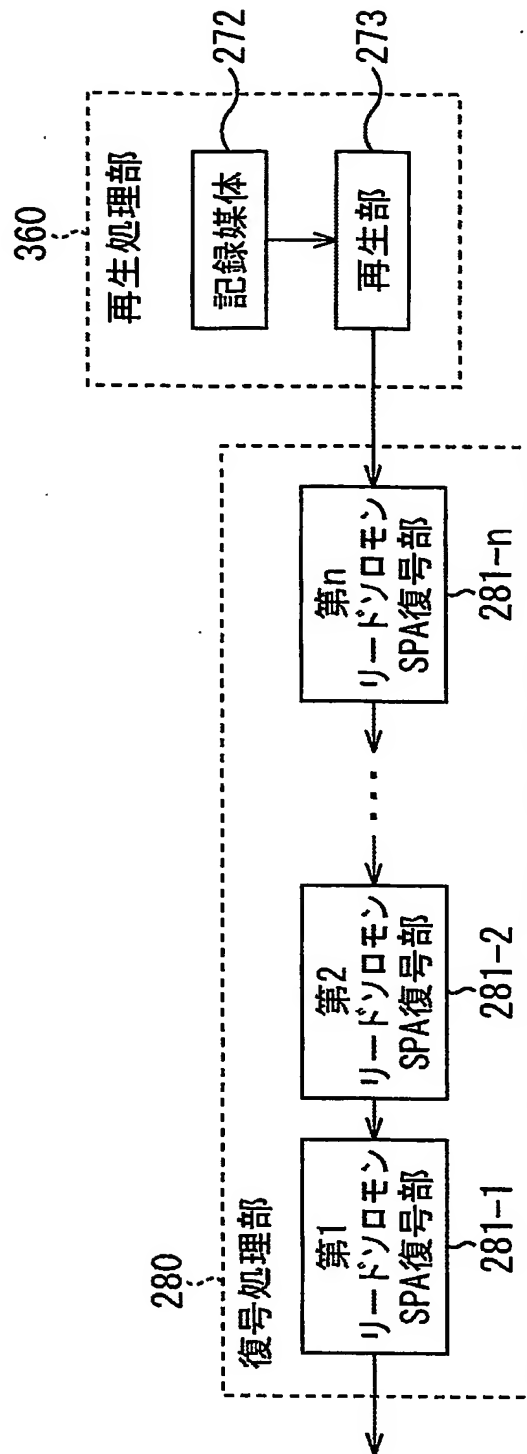
【図 28】

図28



【図 29】

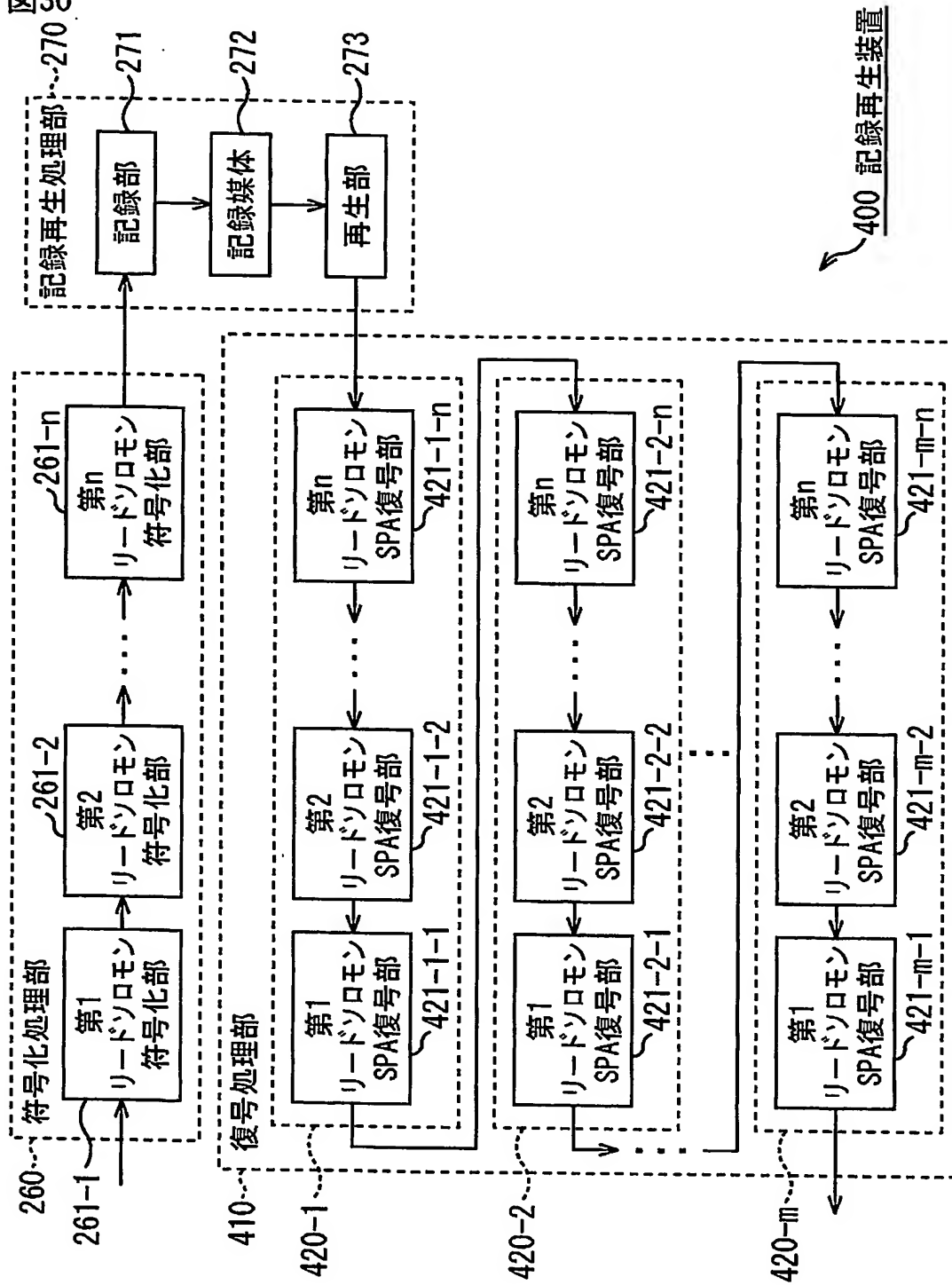
図29



350 再生装置

【図 30】

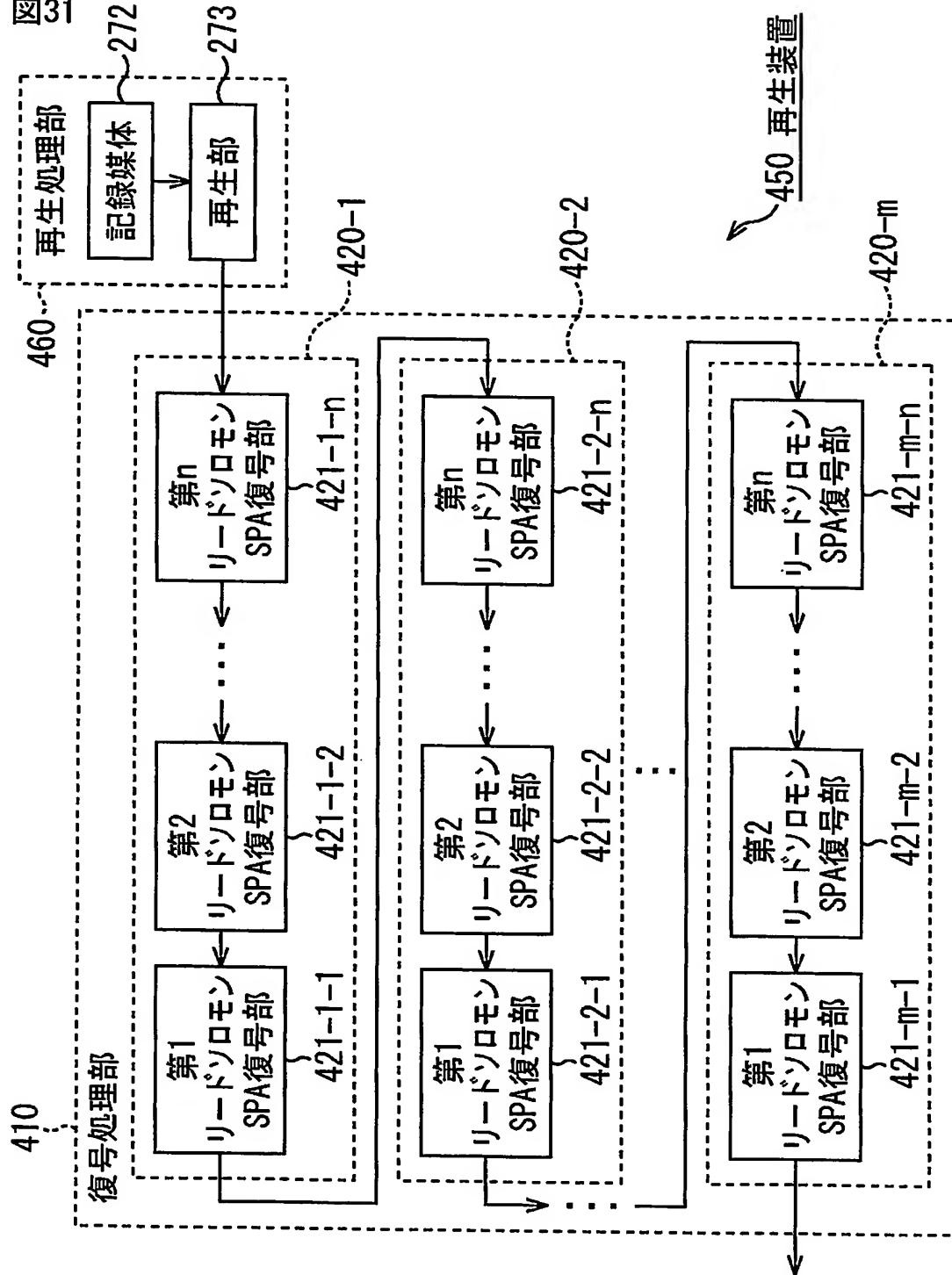
図 30





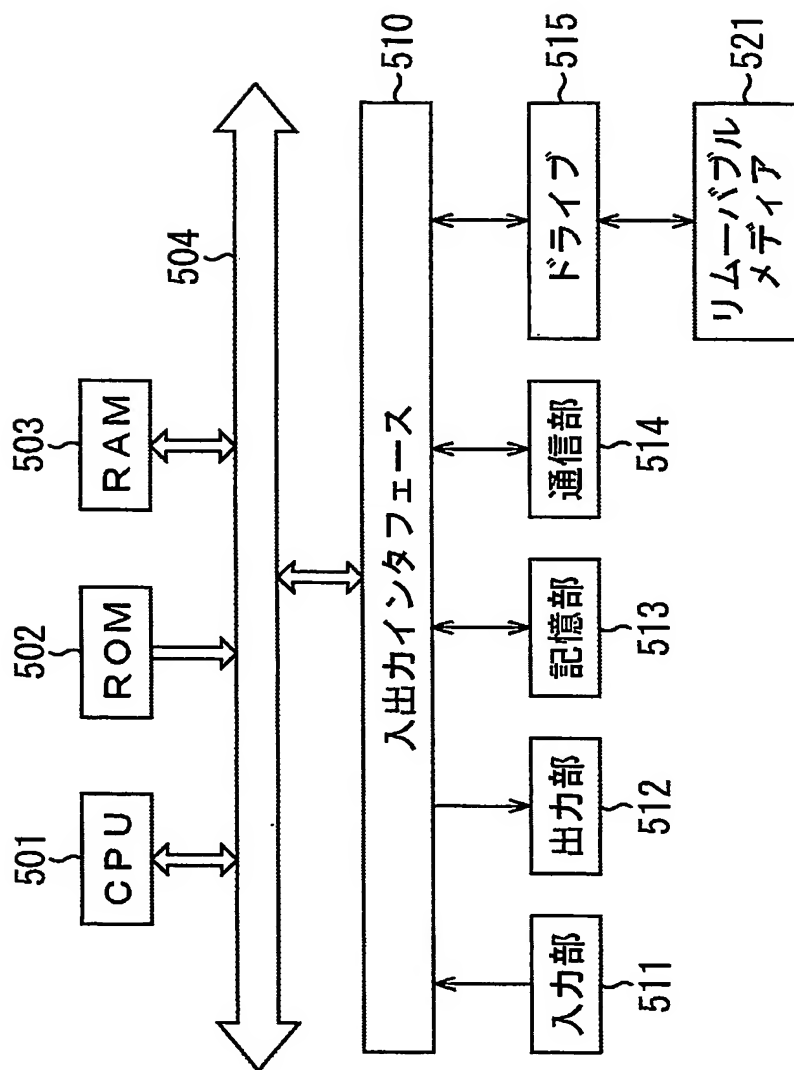
【図 31】

図31



【図 32】

図32



500 パーソナルコンピュータ

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 一般の線形符号に対する復号方法としてサンプロダクトアルゴリズムを適用した場合に、容易に、性能の良い復号処理を行うことができるようにする。

【解決手段】 低密度化処理部は、ステップS21において、パリティ検査行列低密度化処理を実行し、取得した受信語に含まれるパリティ検査行列の行について線形結合を行い、線形結合結果よりパリティ検査行列を生成することにより、復号に用いられるパリティ検査行列の密度を疎にする。そして、ステップS22において、LDPC復号部は、ステップS21の処理により低密度化されたパリティ検査行列を利用し、サンプロダクトアルゴリズム（SPA）を用いた復号処理を行う。ステップS22の処理が終了すると、LDPC復号部は、その受信語に対する復号処理を終了する。本発明は、誤り訂正システムに適用できる。

【選択図】 図14

特願 2 0 0 3 - 1 5 3 9 2 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 2 1 8 5 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 3 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号
氏 名	ソニー株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☒ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☒ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☒ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**